公立大学法人公立小松大学
令和元年度　業務実績報告書

令和２年６月

公立大学法人公立小松大学

目　次

１　公立大学法人公立小松大学の概要
(1) 基本情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
(2) 設置する大学の学部構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
(3) 組織・運営体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
(4) 組織図 ・・・4

２　評価基準
(1) 小項目別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
(2) 指標単位評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
(3) 大項目別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
(4) 全体評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

３　令和元年度業務の実施状況
(1) 全体評価 ・・・8
(2) 大項目別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
(3) 小項目別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
(4) 指標単位評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88

４　資料 ・・・92

５　用語解説 ・・・99

1　公立大学法人公立小松大学の概要

(1) 基本情報

① 法人名　公立大学法人公立小松大学

② 所在地　石川県小松市四丁町ヌ１番地３

③ 設立根拠法令　地方独立行政法人法

④ 設立団体　小松市

⑤ 沿革

平成 30 年４月	公立大学法人公立小松大学設立
	公立小松大学開学（生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部）
	小松短期大学設置者変更
	学校法人小松短期大学解散
令和２年３月	小松短期大学閉学

⑥ 法人の目的　地方独立行政法人法に基づき、大学を設置し、管理することにより、南加賀における教育研究の中心として、幅広い知識と深い専門の学術を教授研究し、地域と世界で活躍する人間性豊かな人材の育成を図るとともに、成果の還元に努め、広く社会の発展に寄与することを目的とする。

(2) 設置する大学の学部構成

大学	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	現員（令和元年５月１日現在）		
						男	女	計
公立小松大学	生産システム科学部	生産システム科学科	80 人	－	320 人	148 人	14 人	162 人
	保健医療学部	看護学科	50 人	－	200 人	6 人	97 人	103 人
		臨床工学科	30 人	－	120 人	32 人	34 人	66 人
	国際文化交流学部	国際文化交流学科	80 人	－	320 人	35 人	130 人	165 人
	総計		240 人	－	960 人	221 人	275 人	496 人

(3) 組織・運営体制

① 役員

役職	氏名	任期	所属先・職
理事長	石田　寛人	平成 30 年４月１日～令和４年３月 31 日	
副理事長	山本　博	平成 30 年４月１日～令和４年３月 31 日	公立小松大学長
副理事長	米谷　恒洋	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	小松短期大学長
理事	横川　善正	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学副学長
理事	千葉　正	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	事務局長
理事	野村　長久	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	小松短期大学事務長
理事	西　正次	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	非常勤
監事	松本　哲哉	平成 30 年４月１日～令和３年度財務諸表の承認の日	非常勤
監事	能登　宏和	平成 30 年４月１日～令和３年度財務諸表の承認の日	非常勤

② 審議機関

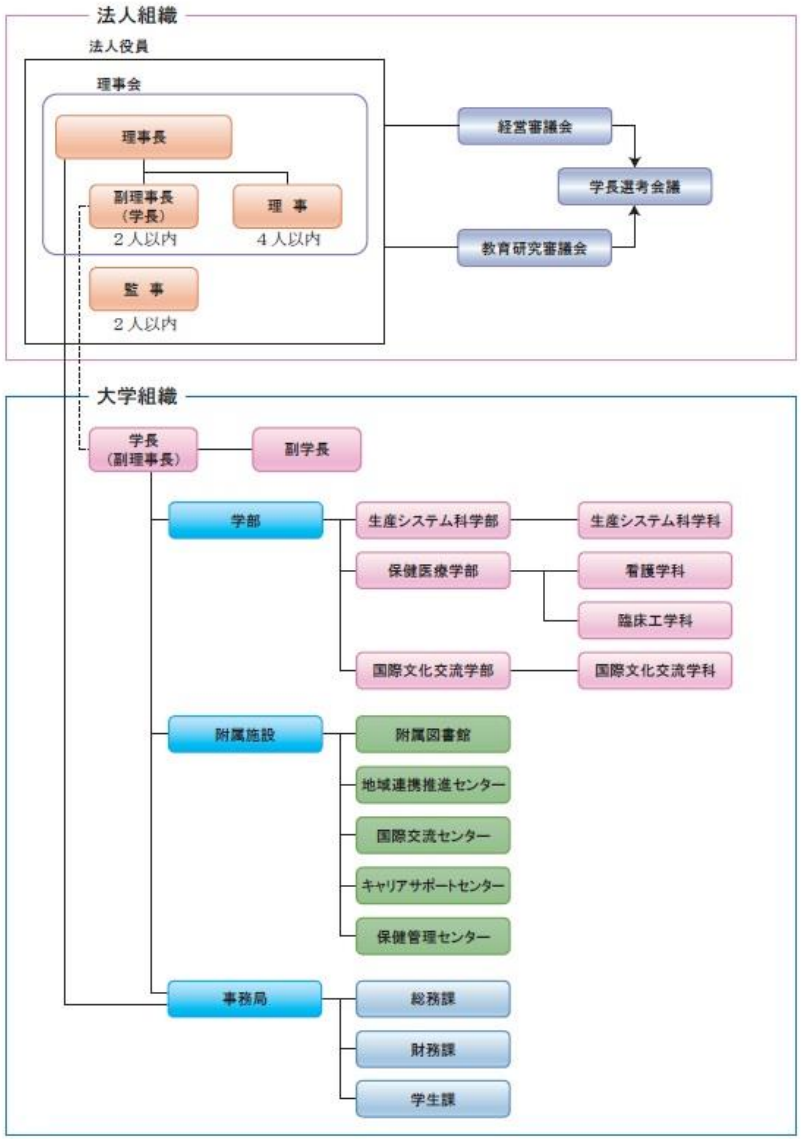
【経営審議会】

役職	氏名	任期	所属先・職
委員（議長）	石田　寛人	平成 30 年４月１日～令和４年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事長
委員	山本　博	平成 30 年４月１日～令和４年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学副理事長（公立小松大学長）
委員	米谷　恒洋	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学副理事長（小松短期大学長）
委員	横川　善正	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事（公立小松大学副学長）
委員	西　正次	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事
委員	千葉　正	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事（事務局長）
委員	山崎　光悦	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	国立大学法人金沢大学長
委員	森　正尚	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	株式会社小松製作所顧問
委員	東野　義信	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	医療法人社団東野会 東野病院 院長
委員	早松　利男	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	小松市参与

【教育研究審議会】

役職	氏名	任期	所属先・職
委員（議長）	山本　博	平成 30 年４月１日～令和４年３月 31 日	公立小松大学長
委員	横川　善正	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学副学長
委員	木村　繁男	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学副学長、生産システム科学部長
委員	北岡　和代	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学保健医療学部長
委員	岩田　礼	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学国際文化交流学部長
委員	真田　茂	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学保健医療学部臨床工学科長
委員	木村　春彦	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学附属図書館長
委員	酒井　忍	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学生産システム科学部教授
委員	徳田　真由美	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学保健医療学部教授
委員	盛田　清秀	平成 30 年４月１日～令和２年３月 31 日	公立小松大学国際文化交流学部教授

(4) 組織図


法人組織
法人役員
理事会
理事長
副理事長
（学長）
２人以内
理　事
４人以内
監　事
２人以内
経営審議会
学長選考会議
教育研究審議会
大学組織
学長
（副理事長）
副学長
学部
生産システム科学部
生産システム科学科
保健医療学部
看護学科
臨床工学科
国際文化交流学部
国際文化交流学科
附属施設
附属図書館
地域連携推進センター
国際交流センター
キャリアサポートセンター
保健管理センター
事務局
総務課
財務課
学生課

２　評価基準

法人が行う業務実績報告書における自己評価は、以下の基準により実施する。

(1) 小項目別評価

年度計画の記載項目（小項目）ごとの進捗状況の自己評価を行い、業務実績報告書において次の５段階により進捗状況を示すとともに、自己評価の判断理由（実施状況）を記載する。

評価	評価基準	評価の条件
5	年度計画を大幅に上回る	・特に優れる若しくは顕著な成果がある
4	年度計画を達成	・上回る若しくは十分な実施状況
3	年度計画を概ね実施	・実施している
2	年度計画を十分に実施せず	・下回る若しくは実施が不十分
1	年度計画を大幅に下回る	・特に劣る若しくは実施していない

(2) 指標単位評価

年度計画の記載項目（指標単位）ごとの達成状況の自己評価を行い、業務実績報告書において次の５段階により進捗状況を示すとともに、自己評価の判断理由（実績値）を記載する。

評価	評価基準	評価の条件
s	年度計画を大幅に上回る	・達成率 100%以上かつ顕著な成果がある
a	年度計画を達成	・達成率 100%以上
b	年度計画を概ね実施	・達成率 80%以上 100%未満
c	年度計画を十分に実施せず	・達成率 60%以上 80%未満
d	年度計画を大幅に下回る	・達成率 60%未満

(3) 大項目別評価

年度計画の小項目別評価及び指標単位評価を踏まえ、中期計画の次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、当該事業年度における中期計画の進捗状況について、次の５段階により自己評価する。

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置		
	1	教育に関する目標を達成するための措置
	2	研究に関する目標を達成するための措置
	3	国際交流に関する目標を達成するための措置
Ⅲ　地域貢献に関する目標を達成するための措置		
Ⅳ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置		
Ⅴ　財務内容の改善に関する目標を達成するための措置		
Ⅵ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置		
Ⅶ　その他業務運営に関する目標を達成するための措置		
Ⅻ　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項		

※次の大項目は省略とする。
Ⅷ　予算、収支計画及び資金計画・・・・・・・・・・・財務諸表及び決算報告書で別途報告を行うため。
Ⅸ　短期借入金の限度額・・・・・・・・・・・・・・・借入の実績がないため。
Ⅹ　出資等に係る不要財産の処分に関する計画・・・・計画上「なし」とされているため。
Ⅺ　重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画・・・計画上「なし」とされているため。
Ⅻ　余剰金の使途・・・・・・・・・・・・・・・・・・余剰金が発生しなかったため

評価	評価の目安
中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	・小項目別評価の平均値が 4.3 以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組がある場合

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、「A」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「A」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	・小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、「B」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「B」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	・小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、「C」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「C」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	・小項目別評価の平均値が 1.8 以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると認める場合

(4) 全体評価

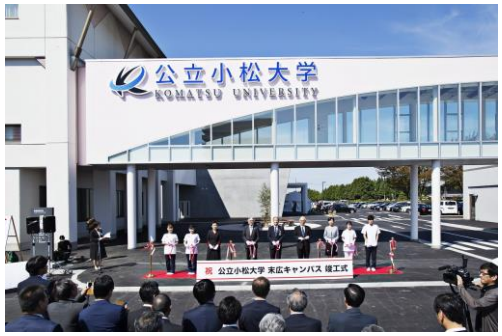
大項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について総合的に勘案し、次の５段階により自己評価する。

評価
中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる
中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する
中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である

３　令和元年度業務の実施状況

(1) 全体評価

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる



末広キャンパス竣工式

令和元年度は、第１期中期計画の２年度目となり、開学初年度に築いた教育研究、地域連携等の基盤を発展させるステップの年と位置付け、新たな取り組みを含め、教職員一体となって大学運営に取り組んだ。

教育面では、少人数制の指導やグループディスカッション、課題解決型学習を積極的に取り入れ、専門分野で活躍する外部講師の招聘などにより、学生が主体的に学び、知識・能力を確かに身に付けるよう、授業や指導方法を工夫した結果、学生からの５段階評価で全体平均 4.15 と高い授業評価を得た。

入学者の確保では、オープンキャンパスの開催や積極的な高校訪問活動を行うなどの入試広報活動を展開し、令和２年度入学者選抜試験（一般選抜、特別選抜）では、入学定員 240 人に対し、1,329 人の志願者があった。

産学合同シリコンバレー研修

研究面では、特色ある研究等の支援に向け、学内公募などの制度を創設した。また、末広及び粟津キャンパスの整備完了により、各学部の研究室等が集約し、今後の教育研究活動のさらなる推進が期待される。産学官連携においては、各学科で「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を開催し、研究シーズの発信に努めた。

国際交流面においては、海外との交流協定を８件締結し、協定に基づき、学生の留学派遣・受入れを実施した。シリコンバレーオフィスを活用した第１弾企画として「産学合同シリコンバレー研修」を実施した。また、学生の海外渡航にあたり、危機管理体制を強化した。

地域貢献では、大学コンソーシアム石川の「地域課題研究ゼミナール」の事業採択や、「KUTANism」の教員・学生の協力参加、小松市医師会糖尿病連携推進協議会との共催による「世界糖尿病デー」イベントなど、地域の特色や課題と向き合い、地域の発展に貢献する取り組みも多数行われた。

このほか、業務運営では、理事長及び学長のトップマネジメントのもと、小松市法人評価委員会からの１年目の評価を踏まえ、法人・大学の着実な発展を目指して業務を遂行した。財務面では、公立小松大学基金の運用や大学施設の一般利用促進に取り組んだ。また、自己点検・評価では、半年ごとに法人全体で業務の進捗管理を行った。その他、教職員の能力向上と職場環境の向上に向け、ハラスメント防止対策や研修会などを開催した。新型コロナウイルス感染症については、危機管理委員会を開催し、学生・教職員の健康・安全を第一に全学体制で警戒と対策にあたっている。

以上より大項目別評価の結果を踏まえ、令和元年度における業務実績の全体について、**「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」**と判断する。

(2) 大項目別評価

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1　教育に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.8	2 (50%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　授業の実施にあたっては、設置認可申請書（平成 28 年 10 月文部科学省に提出）に記載した計画の着実な履行を徹底し、履修希望者がいなかったごく一部の選択科目を除く全ての授業科目を開講した。授業実施にあたっては、各学科内において、教員間で授業内容や授業評価を共有・対応する体制により、組織的に教育課程の実施に取り組んだ。全授業において学生に「授業評価アンケート」を実施し、結果を教員にフィードバックし授業改善につなげた。

客員教授の土井隆雄氏による特別講義

○　共通教育科目の導入科目の内、「キャリアデザイン・チーム論」、「アカデミック・スキルズ」、「テーマ別基礎ゼミ」は、いずれも、少人数グループに分かれての討議や演習、発表などのアクティブ・ラーニングを取り入れて実施した。また、2 年次の専門基礎科目でも少人数制の指導やグループディスカッション、Project-based Learning（課題解決型学習）を各学科積極的に取り入れ、学生が主体的に学び、知識・能力を確かに身に付けるよう、授業や指導方法を工夫している。

オープンキャンパス 2019

○　導入科目「キャリア・デザインチーム論」を中心に、産業界や医療界などで活躍する講師を招き、自らの学びと将来のイメージを繋ぎ、学生の学修意欲の向上につなげたほか、公開形式での講座や講演、セミナーを開催し、幅広い視野の育成に取り組んだ。

○　生産システム科学科、看護学科、国際文化交流学科においては、2 年次のコース選択にあたって、ガイダンスでの細やかな説明や個別相談、面談を実施し、学生の希望や適性などを踏まえたコース選択を指導し、概ね学生の希望に沿ったコース配属を行った。

○　志願者確保においては、高校教諭対象の説明会を北陸３県で実施したほか、オープンキャンパスの開催や、本学職員による高校訪問、本学に高校生や保護者を迎えての大学見学会（説明・模擬授業）を行い、さまざまな形で入試広報活動を展開した。なお、北陸だけでなく、国公立志向の高い東海地方においても、進学相談会の参加や高校訪問を行うなど、昨年度より活動範囲を拡大した。

○　学生支援においては、各学科ともに相談教員の割り振り・担当配置を行い、学生との定期的な面談により、学修面・生活面の把握とサポートを行った。また、新入生を対象に、新たに、全学科で「きずな合宿」を開催し、学生相互及び学生・教員間の交流を促進した。

○　学生生活の経済的支援は、授業料免除や奨学金申請の情報周知、助言などを行ったほか、令和 2 年度からの修学支援新制度について、制度を整備し、募集を行った。そのほか、中央キャンパスに通う学生への昼食補助として、周辺店舗で使用できる補助券を月々交付し、学生への経済支援と併せ、地域経済にも寄与した。

○　学生数の増加に伴い、サークル数も 35 団体に増加し、地域行事への参加など、サークル活動も活発化した。活動報告の把握や、保険加入などの情報提供のため、サークル代表者会議を開催し、適切な活動に向け、支援を行った。昨年度同様、小松市施設「町家ハウス Ryusuke」の優先的利用や、市内公共施設の減免利用など、小松市等からも学生支援が行われた。

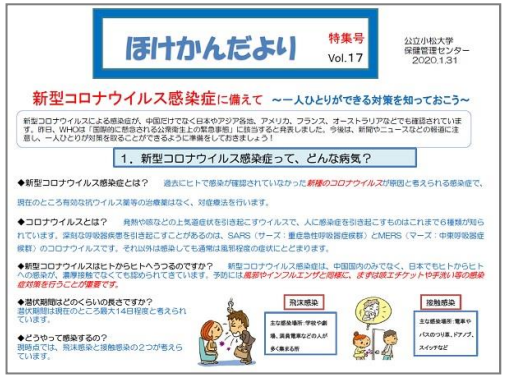
○　保健管理センターでは、学生定期健康診断を実施し、全学生が受診した。また、インフルエンザ集団予防接種を実施したほか、臨床心理士による学生相談は、中央キャンパスと粟津キャンパスの 2 か所で開催し、延べ 300 回相談を受け付けた。新型コロナウイルス感染症については、流行当初から学生・職員向けに注意喚起や予防法を「ほけかんだより」として配信し、マスクや消毒液の確保など、感染症対策に努めた。

○　附属図書館は、末広キャンパスの供用開始に伴い、3 図書館体制がスタートし、「教員推薦図書枠」の設定や、各専門分野の図書をそれぞれの図書館へ移動するなど、図書の充実と学修支援を図った。

○　キャリアサポートについては、キャリアサポートセンターが各種セミナーやガイダンス、企業見学会などを企画・実施したほか、後期からはキャリアカウンセリングを開催した。また、学科別に実習やインターンシップなどの受け入れ先への協力依頼や調整を行い、各種業界や団体等との関係構築を進めた。

きずな合宿（国際文化交流学部）

サークル活動



ほけかんだより　特集号　Vol.17

公立小松大学
保健管理センター
2020.1.31

新型コロナウイルス感染症に備えて　～一人ひとりができる対策を知っておこう～

新型コロナウイルスによる感染症が、中国だけでなく日本やアジア各地、アメリカ、フランス、オーストラリアなどでも確認されています。昨日、WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると発表しました。今後は、新聞やニュースなどの報道に惑い、一人ひとりが対策を取ることができるように準備をしておきましょう！

1．新型コロナウイルス感染症って、どんな病気？

◆新型コロナウイルス感染症とは？　過去にヒトで感染が確認されていなかった新種のコロナウイルスが原因と考えられる感染症で、現在のところ有効な抗ウイルス薬等の治療薬はなく、対症療法を行います。

◆コロナウイルスとは？　発熱や咳などの上気道症状を引き起こすウイルスで、人に感染症を引き起こすものはこれまで6種類が知られています。深刻な呼吸器疾患を引き起こすことがあるのは、SARS（サーズ：重症急性呼吸器症候群）とMERS（マーズ：中東呼吸器症候群）のコロナウイルスです。それ以外は感染しても通常は風邪程度の症状にとどまります。

◆新型コロナウイルスはヒトからヒトへうつるのですか？　新型コロナウイルス感染症は、中国国内のみでなく、日本でもヒトからヒトへの感染が、濃厚接触でなくても認められてきています。予防には風邪やインフルエンザと同様に、まずは咳エチケットや手洗い等の感染症対策を行うことが重要です。

◆潜伏期間はどのくらいの長さですか？
潜伏期間は現在のところ最大14日程度と考えられています。

◆どうやって感染するの？
現時点では、飛沫感染と接触感染の2つが考えられています。

飛沫感染
主な感染場所：学校や教室、満員電車などの人が多く集まる所

接触感染
主な感染場所：電車やバスのつり革、ドアノブ、スイッチなど

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
２　研究に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.8	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　研究施設の整備は、9 月に末広キャンパスが竣工し、保健医療学部の研究機能を末広キャンパスに集約させた。また、粟津キャンパスでは、学生ホール及び研究室、実習室、トイレの改修工事、エレベーターの新設工事を実施し、研究環境の整備が完了した。

○　各学科に対し、研究支援として新たに「研究発展・向上費」を設け、募集を行ったところ、若手研究者支援のための研究機器購入、研究発表のための共通機材購入、紀要の発行などに活用された。

○　本学独自の研究支援制度として、特色ある独創的研究、産業・医療・国際上の課題等の解決に向けた研究を対象とする「公立小松大学重点研究『みらい』」を新たに設けた。8 件の応募があり、審査の結果 3 件を採択した。

○　学科別に「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を開催し、本学の研究力の発信を行うとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。特に生産システム科学科では、2 年生全員が参加し、学生に地域の産業やものづくり文化を学ぶ機会の提供にもなった。

○　科学研究費補助金等の外部資金獲得に向け、外部講師を招いて講習会を開催したほか、公募要領についての学内説明会を行うなど適宜申請支援を実施した。

末広キャンパス　臨床工学科実習室

シーズ・ニーズマッチングシンポジウム
（生産システム科学科　朴助教の発表）

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
３　国際交流に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
4.0	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　世界各国の大学等と協定締結に向けた交渉・調整を精力的に行った結果、新たに大学間協定５件、部局間協定３件を締結し、累計 13 件（大学間：8 件、部局間：4 件、その他：1 件）となった。学生 6 人が協定校などに半年から 1 年留学し、また、5 人の学生の留学を受け入れた。留学の実施にあたって規程や申請書類の整備、危機管理サポート加入などを行ったほか、受け入れにあたっては、粟津キャンパス内の寮を確保し、「チューター制度」により日本人学生が留学生をサポートするなど、派遣・受け入れいずれも学生の安全確保と学修・生活支援のための環境整備を進めた。

○　海外研修として、「カンボジア国立アンコール遺跡整備公団インターンシップ」のほか、新たにシリコンバレーオフィスを活用した「産学合同シリコンバレー研修」、石川県の補助を受け「石川ルクセンブルク青年交流事業」を実施した。いずれも、担当教員や保健管理センター等による事前研修を実施し、事故なく適切に実施した。

○　短期留学として、夏休み期間中に中国の東南大学のプログラムに参加したほか、春休み期間中には、台湾の建国科技大学とニュージーランドオークランド大学 English Academy での語学研修を実施した。なお、春休み期間中にはこのほか中国、マレーシア、タイの協定校での語学研修、異文化体験実習を予定していたが、世界的な新型コロナウイルス感染拡大により、受け入れ先の意向や学生の安全確保を考慮し、中止した。

○　海外インターンシップや語学研修、異文化体験実習の実施先の多様性を確保するため、国際文化交流学部が中心となって世界各国の大学と協定締結に向けて交渉を継続的に実施した。

○　地域における国際活動支援に向け、小松市や小松市国際交流協会等と連携し、海外からの視察団（アフリカ、スウェーデン、ロシア、インド）受入れや、国際情勢について学ぶ「こまつ市民大学」の開講、「英会話カフェ」の開催、各種スピーチコンテストの審査員協力など、さまざまな取り組みを実施した。

JENESYS2019　インドの学生との交流
（「平和教育」についてのグループディスカッション）

Ⅲ　地域貢献に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.8	2 (67%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　共同研究や受託研究の推進、地域の課題解決に向けた大学の知の還元に向け、地域連携推進センターを中心に、ＭＥＸ金沢や北陸技術交流テクノフェア、Matching HUB Kanazawa 2019 などの産官学連携イベントに積極的に出展・参加し、シーズの発信と地域連携事業の PR を行った。

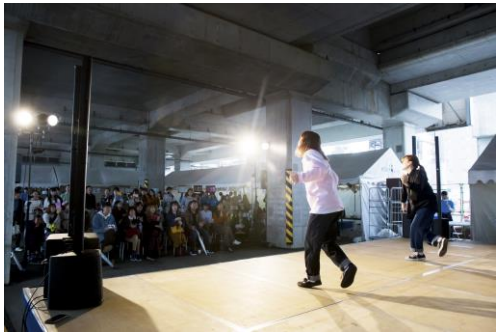
○　地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出するため、社会人教育プログラム「ものづくり人材スキルアッププログラム」や資格取得支援講座を開講した。また、「こまつ市民大学」においては、各教員の研究分野に沿った講座を多数開講した。

○　自治体、地域の団体等との連携においては、大学コンソーシアムの「地域課題研究ゼミナール支援事業」で２件採択され、小松市、市内の町内会と連携し、地域ポータルサイト（アプリ）の活用や地域が主体となった乗合ワゴンの活性化に向けて、教員と学生が活動した。また、小松市・能美市で開催された九谷焼の祭典「KUTANism」で学生がガイドツアーを行ったり、看護学科では小松市医師会糖尿病連携推進協議会との共催により「世界糖尿病デー」で子供向けの特別講演やクイズラリーを実施したりするなど、学生を交えながら地域のプロジェクトの活性に貢献した。

大学コンソーシアムいしかわ「地域課題研究ゼミナール支援事業」。月津地区の乗合ワゴンの活性化を検討。

○　各キャンパスにおいて施設の市民利用を推進し、中央キャンパスは、附属図書館及び自習室（高校生・大学生に限る）を、粟津キャンパス及び末広キャンパスでは、学生食堂および附属図書館を開放した。特に中央キャンパスの自習室は、近隣の高校生の利用が大きく伸びた。

○　若者のエネルギーをまちづくりへ積極的に活かしていくため、学生の自主的な活動を大学として支援した。大学祭「第２回青松祭」は、学生が実行委員会を組織し、「スマイル木場潟」や「ラグビーワールドカップパブリックビューイング」などのイベントでボランティア活動を行いながら事前 PR を展開し、市内の事業所等から多くの協賛に協力いただいた。そのほか、大学の地域貢献として、お旅まつりやクリーンビーチいしかわ等の地域で行われている行事に積極的に参加した。地域活性化サークルが、県内のベーカリー店とコラボ商品を開発・販売するなど、地域に根差した積極的なサークル活動も行われた。



第２回青松祭（ステージや模擬店などは、JR 小松駅高架下で開催）

Ⅳ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.1	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

○　理事長及び学長両名のトップマネジメントのもと、理事会や各種審議会、教授会等を運営し、適切な法人運営に取り組んだ。自己点検・評価委員会及び評価室により、各セクションの年間の業務の方針や予定、進捗状況の管理表を作成し、半年に一度ヒアリングを実施し、各組織の業務全体を把握し、適切な進捗管理を推進した。

○　末広キャンパスが完成し、３キャンパス体制のスタートにあたっては、全体の業務量や業務内容を精査し、所要の人員を配置した。

○　構成員の資質・能力の向上を図るため、財務研修や救急講習のほか、新規採用職員研修、公立大学協会等が実施する研修への派遣、外部講師を招き、教育や研究の向上に向けた研修会を開催した。

○　ポータルサイト（学務情報システム）を利用した授業評価アンケートの実施や寄付金のカード決済開始、研究シーズ集作成にあたっての「デジタル校正システム」の導入など、各部署において情報化の推進により、業務の効率化・合理化を図った。

Ⅴ　財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.6	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　入学志願者の確保及び入学定員の充足によって安定した学生納付金の確保を図るため、高校教諭対象大学説明会やオープンキャンパスの開催、高校訪問などの様々な取組を行った。また、受験関連企業が開催する「大学進学相談会」や高校訪問は、北陸３県のみならず、東海地方へも範囲を拡大し、実施した。さらに、受験関連企業が発行している受験雑誌やポータルサイトについても、その効果を見極めたうえで大学情報を掲載し、一般選抜に向けては、センター試験終了後、理系志望者へのＤＭの発送や、県内ラジオでＣＭを集中的に流すなど、ＰＲを強化した。

○　公立小松大学基金は、パンフレットを作成し、寄附のお願い、寄附の手続き方法、税法上の優遇措置についての説明を分かりやすく記載するとともに、振込依頼書と一体化することで利便性の向上と事務の効率化を図った。また、クレジットカード決済やコンビニ支払いなど、インターネットからの申込も可能なシステムとした。

Ⅵ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.5	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　開学１年目の業務実績報告書を作成し、小松市法人評価委員会に提出し、法人評価を受けた。法人評価委員会で受けた指摘やアドバイスなどは、法人の審議会や各種委員会において説明を行うなどして職員一人ひとりへの周知を図り、業務改善や新たな取り組みの実施に努めた。また、自己点検・評価委員会及び評価室により、各セクションの業務の把握、進捗管理を年間とおして実施した。

○　「広報室」を中心に、広報誌「Tachyon」の発行（年２回）、大学案内改訂版の発行、ホームページの運用、ラジオ「飛び立て!公立小松大学」などの様々な媒体での広報活動を展開した。ホームページでは、特に、学生の活動などをニュース記事として積極的に紹介することに努めた。

Ⅶ　その他業務運営に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.9	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)

【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　キャンパス整備計画に基づき、粟津キャンパス及び末広キャンパスの整備を実施し、粟津キャンパスではエレベーターの新設や研究室・実習室の改修、末広キャンパスではＣ棟の増築工事、Ａ棟・Ｂ棟の改修工事がいずれも計画通り完了した。また、中央キャンパスにおいてはこまつアズスクエア１階に自動ドアを設置し、利用者の安全性の向上を図った。

○　人事異動や組織改編に伴い自衛消防マニュアル等の見直しや防災備品等を整備し、また、職員を対象とした各種訓練を実施し、災害時等の初動対応について確認を行った。さらに、小松市からの要請を受け「災害時の一時避難施設としての使用に関する協定書」を締結した。

○　危機管理ツールとして導入した安否確認システム「Safetylink24」の本格運用を開始し、配信訓練等を通し緊急時連絡体制・周知体制を強化した。また、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受け、危機管理委員会を開催し、本学としての基本方針を策定し、全学体制で感染防止に取り組んだ。

粟津キャンパスの壁面緑化

○　全学情報システム運用委員会を開催し、セキュリティーポリシーに係る情報システム基本運用方針、各種利用規程や情報格付け基準などを策定し、情報セキュリティ体制の構築を進めた。

○　ハラスメント防止を目的に、ハラスメントに関する苦情の申出及び相談に対応するため、ハラスメント相談員を各キャンパスで選定し、学生・職員へ周知した。

○　平成 30 年度の決算・業務について監事監査を実施し、法人業務は適正に実施していると認められた。

Safetylink24 の登録を学生に周知し、配信訓練を実施

XⅢ　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

小項目別評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
5.0	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)

【自己評価】中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある

○　粟津キャンパスと末広キャンパスの整備を計画通り完了した。また、末広キャンパスの小松市出資等に関する登記事務も適正に実施した。

(3) 小項目別評価

① 自己評価結果一覧

大項目	事業項目数	5 年度計画を大幅に上回る	4 年度計画を上回る	3 年度計画を概ね実施	2 年度計画を十分に実施せず	1 年度計画を大幅に下回る	評定平均値
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育に関する目標を達成するための措置	40	2 (5.0%)	26 (65.0%)	12 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究に関する目標を達成するための措置	8	0 (0.0%)	6 (75.0%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 国際交流に関する目標を達成するための措置	3	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
Ⅲ 地域貢献に関する目標を達成するための措置	10	0 (0.0%)	8 (80.0%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	12	0 (0.0%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.1
Ⅴ 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	9	1 (11.1%)	3 (33.3%)	5 (55.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
Ⅵ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	4	0 (0.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.5
Ⅶ その他業務運営に関する目標を達成するための措置	14	1 (7.1%)	10 (71.4%)	3 (21.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
ⅩⅢ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5.0
合計	101	5 (5.0%)	59 (58.4%)	37 (36.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.7

② 小項目別業務実績・自己評価結果（詳細）

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標

1　教育に関する目標

(1) 共通教育

中期目標	学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。また、専門領域を超えた分野横断的な教育を行い、学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力の育成に努める。大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を高める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　ー　(1) 共通教育					
① 学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。	Ⅱ-1-1	大学設置認可申請書に記載した教育課程を体系的、組織的に実行するとともに、学習成果の評価方法について検討する。	各学部、教育企画委員会	導入科目「アカデミック・スキルズ」のすべてと、「情報処理基礎」の一部で、他学部教員による教育を行い、専攻分野以外の思考法や研究方法に触れさせ、幅広く柔軟な思考の涵養を行った。また、各学科内においても、教員間で授業内容や授業評価を共有し、改善、対応できる体制により、組織的な教育課程の実施に取り組んだ。 学習成果の評価については、看護学科では、「アカデミック・スキルズ」において、担当教員間で検討し作成したルーブリック評価表を用いて、評定者間の格差を減じる取組を一部授業で導入している。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-2	アクティブ・ラーニングや少人数教育、複数の教員集団によるきめ細かい指導等の取組を推進し、授業内容に応じた学生の学習意欲の向上を図る。	各学部	共通教育科目の導入科目の内、「キャリアデザイン・チーム論」、「アカデミック・スキルズ」、「テーマ別基礎ゼミ」は、いずれも、少人数グループに分かれての討議や演習、発表などのアクティブ・ラーニングを取り入れて実施した。 また、2年次の専門基礎科目でも少人数制の指導やグループディスカッションなどを取り入れ、学生の主体的な学びにつなげている。 [キャリアデザイン・チーム論]【P93 資料1】 看護学科では、主担当の教員以外に2人の教員が毎回参加し、少人数グループに分けて指導を実施した。 [アカデミック・スキルズ]【P95 資料2】 少人数グループに分け、複数の教員による指導を実施。それぞれの学部の学術領域を踏まえ、グループ討議や演習、プレゼンテーションの手法、文献調査やフィールド調査の手法、レポートの書き方などについて授業を行った。 [テーマ別基礎ゼミ]【P97 資料3】 生産システム科学科では、4～5人の学生を1人の教員が担当し、学生自身が興味を持ったテーマについてディスカッションを中心に授業を進め、最終回で成果発表会を実施した。 看護学科では、5人の主担当教員にさらに5人の教員を補佐として投入し、きめ細かな指導を行った。小人数グループでアクティブラーニングを行い、学会形式での発表も行った。 臨床工学科では、学生にテーマを選択させ、アプリケーションソフトを用いた実験や資料作成を行い、学会発表形式での発表も行った。 国際文化交流学科では、小松青年会議所、NPO法人カブッキータウンこまつと共同で「Connect us!駅前商店街を歩こう」という特別講義を設け、商店街の活性化についてディスカッション、プレゼンテーションを行った。 [専門基礎科目] 生産システム科学科では、「応用数学Ⅰ」「材料学および演習」「工業熱力学及び演習」などの授業で、グループ演習や発表などのアクティブラーニングを取り入れた。 国際文化交流学科では、「国際交流論」でグループディスカッションを取り入れ、学生の主体的な学びに取り組んだ。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-3	自らの学びと社会とのつながりを知るための学修機会を設け、社会の第一線で活躍している方のゲストスピーカー招聘等を実施する。	各学部	各学科、キャリアデザインを展望しながら、組織や社会集団の一員として貢献していくための知識とノウハウを学ぶための導入科目「キャリアデザイン・チーム論」を中心に、産業界や医療界などで活躍する講師を招き、自らの学びと将来のイメージを繋ぎ、学生の学修意欲の向上につなげた。 [生産システム科学科] キャリアデザインチーム論に、以下の講師を迎えた。 5/8 JAF(一般社団法人日本自動車連盟) 5/22 細野 昭雄氏(㈱アイ・オー・データ機器代表取締役会長) 5/29 黒本 和憲氏(㈱コマツ顧問) 6/5 大山 一浩氏(日立製作所) また、1月23日の「エネルギー資源と開発」は公開講座とし、客員教授の土井 隆雄氏(宇宙飛行士)が特別講義を行った。 [保健医療学部] 5月22日のキャリアデザインチーム論には、UN大学などで活躍した堤敦朗氏(金沢大学国際機構)を迎えた。 [看護学科] 「認知証ケア論」では、小松市の保健師を講師に、市が進める認知症サポーター養成講座を実施した。「心の健康とストレスマネジメント論」では、南加賀保健所の社会福祉士による「石川県ゲートキーパー研修」を実施し、自殺防止の対応について学んだ。そのほか、専門基礎科目や専門科目に、医師や看護師、精神科認定看護師などを招き、特別講義を実施した。 [臨床工学科] 加納隆氏(滋慶医療科学大学大学院)を招き、2年生を対象に、特別講義「臨床工学技士の歴史・現状・将来」を実施した。 [国際文化交流学科] キャリアデザインチーム論には、マイナビから講師を招き、自己診断テストなどを実施した。 専門科目「国際政治論」では、尾形誠氏(元小松基地司令)や、安富淳氏(宮崎国際大学)を講師に招いた。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-4	授業評価アンケート等を定期的に実施し、課題の共有や授業改善を通じて教育の質の向上を図る。	各学部、教育企画委員会	前期・後期の最終回の授業で、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てる為、全教科を対象とした授業評価アンケートを実施した。 なお、学生の利便性、集計作業の効率化などを踏まえ、ポータルサイト(学務情報システム)を利用したアンケートを、前期に一部で試行し、後期は全アンケートをポータルでの回答に移行した。アンケート結果は授業改善に活用するため、全教員にフィードバックされ、学長や学部長・学科長から、授業内容の改善等に関する必要な指示がなされた。 看護学科では、全学的なアンケートとは別に、専門科目において、毎回、授業ごとに学生からの評価を受け、授業改善につなげている。 [授業満足度(5点満点)] 全体　平均4.15(目標値3.3) (前期　平均4.19　／　後期　平均4.11)	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
② 学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力を育成するため、専門領域を超えた分野横断的な教育と、大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を高める教育を行う。	Ⅱ-1-5	学生全員が地域を学び、地域に触れ、地域について考える活動を実施し、地域社会に貢献できる人材育成を展開する。	各学部、教育企画委員会	導入科目で「南加賀の歴史と文化」を全学部の1年生が受講し、古典の読解を通して地域の歴史を学んだ。 生産システム科学科では、「キャリアデザインチーム論」「日本産業史」において、地元企業の創業者や技術担当役員などを講師に招き、地域の産業の歴史や構造の特色について講義を行った。 看護学科では、専門科目「市民健康論」において、グループに分かれ、地域保健・医療・福祉の状況を自己学修し、地域の健康課題を考える教育を展開した。また、「テーマ別基礎ゼミ」において『人生100年時代がやってきた』を大テーマとして、グループ演習を行った。考察の視点の中には、グローバルな視点、ものづくりの視点などを軸にした課題もあり、複合大学として学生に幅広い思考、視野を育成している一例と認められる。 臨床工学科では、「キャリアデザインチーム論」において、小松市消防本部の協力のもと、救急対応のトレーニングを受け、医療現場で働く人と触れ合う機会を設けたほか、将来の臨床工学技士像についてグループワーキングを行った。 国際文化交流学科では、「テーマ別基礎ゼミ」において、小松青年会議所等とグループワーキングを開催し、学生が地域課題について考察をおこなったほか、九谷焼の祭典「KUTANism」でのボランティアガイドなど、多くの学生が課外活動も通して地域に触れる機会が生まれた。	3
	Ⅱ-1-6	全学部学生のTOEIC 受験を奨励するとともに、スコアの分析を踏まえた授業内容の改善等の英語力の向上につながる取組を検討する。	国際文化交流学科、教育企画委員会	TOEICの出題形式のテキストに基づき、リスニング力および文章読解力の養成を目指す授業科目「実用英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を開講した。受講者合計44人 2月14日、国際文化交流学部全1年生と他学科1・2年生（希望者）を対象にTOEICIP(L&R)テストを実施し、93人が受験し平均点は「459点」だった。 受験者の内訳（生産8人、看護1人、臨工3人、国際81人） 国際文化交流学部では、平成30年度に実施したTOEIC Bridgeの成績を分析した上で、6月4日に2年生全員受験によるTOEICIP(L&R)テストを実施し、平均点は「483点」だった。 結果は大問ごとに傾向を分析し、英語教員で共有するとともに以降の授業内容の改善に役立てた。また、2月14日に1年生を対象に実施した同テストでは、国際の学生の平均点は「468点」だった。	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-7	幅広い視野と豊かな人間性の育成を図るため、全学部の学生を対象に、学部横断的なテーマを扱う公開授業を実施する。	教育企画委員会	［公開講座・公開講演会］ ・特別講義「有人宇宙活動」(1/23) 客井教授の土井 隆雄氏(宇宙飛行士)を招き、公開講座の形式で実施 ・公開講演会「台湾をめぐる安全保障:これからの日台関係を見据えて」(1/31) 元小松基地司令の尾形誠氏を迎え、本学教員がコメンテーター、モデレーターを務めた また、保健医療学部では、課外セミナーとして、以下を開催した。 ・「賢い消費者塾」(5/31) 講師:川本樹弁護士(小松かがやき法律事務所) ・「大人の交通マナー」(6/7) 講師:元谷 公一氏(一般社団法人日本自動車連盟) ・「放射線・放射能の基礎知識」(6/26) 講師:松原孝祐(金沢大学准教授)	3

(2) 専門教育

中期目標	確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行うとともに、実践的な課題解決型学習を行う。これにより、主体的な学びの姿勢を育み、日本と世界に広く通用しうる課題発見・解決能力の醸成を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　－　(2) 専門教育					
① 確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行う。	Ⅱ-1-8	学生が専門分野に対して関心を持って学習に取り組むよう、教育方法の改善に努め、質の高い教育を実施する。	各学部、教育企画委員会	生産システム科学科では、北陸のものづくりに直に触れ、専門分野への関心を高める取り組みを行った。 ・2年生を対象にMEX金沢（機械工業見本市金沢）見学（5/17） ・キャリアサポートセンターとの連携により中村留精密工業や澁谷工業見学（8/7） ・コマツ粟津工場の見学（9/2） 看護学科では、専門科目では毎回授業ごとに学生の授業評価を実施し、実習成果の確認と実習の改善に役立てた。大学として実施している授業アンケートにおいても、看護学科の授業は、非常勤講師による専門基礎科目、専任教員による専門科目ともに平均以上の高い評価を得た。 臨床工学科では、高校の学習から大学での学びの移行を円滑にするため、特に専門基礎科目において、生物学やプログラミング、情報処理の基本である2進数や論理演習など、高校で習得されていないことが多い分野について基礎知識の丁寧な説明を各教員が心がけ、学修を支援した。また、実験や演習を授業に取り入れるとともに、国際化を考慮し、重要な専門用語には英語を示すなどしながら、専門教育を行った。 国際文化交流学科では、2年次前期に専門基礎科目7科目を開講し、その後、コース配属を行い、公開からはコースごとの専門教育を実施している。国際観光・地域創生コースの必修科目「世界遺産を学ぶ」では、これと関連して世界遺産検定の受検を勧奨しているが、目標レベルの3級認定に留まらず、すでに2級認定者が出るなど効果を上げている。第38回の同検定では、全国の団体受検している団体の中でも特に優秀なものであったことから最高賞の「文部科学大臣賞」を授与された。（3級受検者47人の全員、2級受検者25人のうち14人が認定を受けた）	5

		Ⅱ-1-9	コース選択にあたっては、入学時のオリエンテーションにおいて十分な説明を行う。また、学生の適性、関心、希望を踏まえた教員による進路の相談・助言を定期的に行う等、適切なコース選択が行われるよう指導を行う。	生産システム科学科、看護学科、国際文化交流学科	生産システム科学科では、年2回履修ガイダンスを実施し、コース選択について丁寧に説明を行い、2年次の後期開始前にコース配属を行った。その際、コース進級条件を満たさなかった学生について、学科長、教務担当教員、相談教員の3人が保護者同伴の学生と面談を実施し、学生の単位修得状況について情報の共有を図った。下半期もコース進級保留の7人に対して、引き続き面談等を実施した。 生産機械コース　35人　／　知能機械コース　37人 看護学科では、1年生に対しては保健師養成課程の選択に関する情報提供を4月の履修ガイダンス時に、2年生に対しては前期成績通知時に、各学年にあわせた情報提供を行った。特に、2年生に対しては公衆衛生看護学の教員が末広キャンパスにおいて常時相談・助言する体制を整備した。令和2年1月、2年生を対象に、コース選択説明会を開催し、応募・選考・教授会承認・選択学生発表の一連の手続きを実施した。 31人の応募者から、25人を保健師コースに選択した。応募期間中は各学生からの相談に応じ、助言を丁寧に行った。 国際文化交流学科では、2年生を対象に4月のオリエンテーションでコース選択に関する概要を説明し、4月から6月まで、相談教員を窓口として相談を受けた。6月末に希望するコースに関するアンケートを実施し、本人の希望などを良く踏まえた上で人数調整を行い、7月にコースを決定した。 国際観光・地域創生コース　37人　／　グローバルスタディーズコース　41人	3
		Ⅱ-1-10	**【Ⅱ-1-4】再掲** 再掲学生アンケート等を定期的に実施し、課題の共有や授業改善等の活動を通じて教育の質の向上を図る。	各学部、教育企画委員会	前期・後期の最終回の授業で、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てる為、全教科を対象とした授業評価アンケートを実施した。 なお、学生の利便性、集計作業の効率化などを踏まえ、ポータルサイト(学務情報システム)を利用したアンケートを、前期に一部で試行し、後期は全アンケートをポータルでの回答に移行した。アンケート結果は授業改善に活用するため、全教員にフィードバックされ、学長や学部長・学科長から、授業内容の改善等に関する必要な指示がなされた。 看護学科では、全学的なアンケートとは別に、専門科目において、毎回、授業ごとに学生からの評価を受け、授業改善につなげている。 [授業満足度(5点満点)] 全体　平均4.15(目標値3.3) (前期　平均4.19　／　後期　平均4.11)	4

		Ⅱ-1-11	看護師、保健師、臨床工学技士の国家試験に向けて、学修進度に応じた支援体制を整え、全員の合格に向けた組織的な取組を推進する。	看護学科、臨床工学科	看護学科では、一期生の国家試験対策を踏まえて、教員による「国家試験サポート委員会」を立ち上げた。下半期からは各看護領域から教員1人を出して委員会を強化し、定期的に委員会を開催し、次年度、新3年生を対象とした国家試験対策ガイダンスを開催するための準備を進めた。 臨床工学科では、臨床工学技士国家試験に密接な関係のある第2種ME実力検定試験の対策講座を開講した（任意参加）。主として2年生を対象とし、6月7日から7月19日まで模擬試験1回を含み計7回実施した。 ［第2種ME実力検定試験の結果］。 1年生　8人受験　2人合格 2年生 31人受験　7人合格　（合格率23%）	4
	② ディプロマポリシーに掲げる専門能力を強化するため、各学部・学科に対応した地域あるいは海外の課題と取組むProject-based Learning（課題解決型学習）を行う。	Ⅱ-1-12	Project-based Learning（課題解決型学習）を行う授業等を実施し、学生の深い学びを促すとともに、その教育効果の検証を行う。	各学部	各学科、必修科目においてProject-based Learningの導入準備、実施を行った。課題の発見、課題解決に向けた検討、グループワーク、発表等を行うことで、能力の育成を図った。 生産システム科学科では、3年次の「課題探求プロジェクト」の実施に向け、具体的な方策を検討した。 看護学科では、1年次の「市民健康論」、2年次「基礎看護実習Ⅱ」「精神保健看護実習Ⅰ」等において、PBLを用いた教育を実施した。実習を通して、より適切な看護ケアを提供するための課題を考察させ、個人あるいはグループで発表、レポート提出をさせたところ、評価がS、Aの学生が圧倒的に多く、学生の達成度の高さが認められた。 臨床工学科では、1年次の「テーマ別基礎ゼミ」において、「ヒトとロボット、その未来の臨床工学」というテーマで課題解決型授業を行い、学生自らの発表や質疑応答の能力を高めた。さらに、ロボット勉強会や、オープンキャンパスに向けた「ロボット実演」の競技を行い、学生の課題解決能力を養成した。また、専門基礎科目「電気工学Ⅱ」「電気工学演習Ⅰ」において、実験コーナーを設け、課題を付与し、実験方法などをグループで討論させた。 国際文化交流学科では、1年次の「テーマ別基礎ゼミ」で、5人の担当教員がそれぞれのテーマ（まちづくり、農村ツーリズム、異文化理解、国際政治、くらしと経済）に沿い、講義やグループワーク、プレゼンテーション、レポート、フィールドワークなどを行った。	4

(3) 入学者選抜

中期目標	大学の入試広報を積極的・計画的に行い、アドミッションポリシーにもとづいて目的意識・学習意欲・学力の高い入学者確保に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　－　(3) 入学者選抜					
① 本学のアドミッションポリシーにもとづいて、目的意識・学習意欲・学力の高い入学者を確保するため、大学の入試広報を積極的・計画的に行う。	Ⅱ-1-13	南加賀地域、石川県、北陸地方のみならず全国も視野に入れた、大学説明会やオープンキャンパスを実施し、高等学校への訪問の実施等の学生募集活動を展開する。	教育企画委員会（入試部会）	高校教諭対象大学説明会やオープンキャンパスの開催、教員や事務職員による高校訪問のほか、北陸三県以外の進学相談会への参加など、様々な取組を実施した。 ［高校教諭対象大学説明会］ 金沢、小松、福井、富山の４会場で大学説明会を実施し、北陸３県の高校から延べ77校89人の教員が参加。 6/24　小松会場（参加　13校16人） 6/25　富山会場（参加　18校18人） 6/27　福井会場（参加　16校22人） 6/28　金沢会場（参加　31校34人） ［オープンキャンパス］ ７/13にオープンキャンパスを実施し、会場配置を変更し定員を設けない、申込フォームを設置、情報発信の拡大など行った結果、昨年度を大きく上回る809人の参加があった。 オープンキャンパス2019（参加者809人）※H30年度487人 ［高校訪問］ 6月及び9月に、北陸3県を中心として、教員や事務職員による高校訪問を実施し、入学者選抜要項や募集要項を説明した。また、学科ごとに学生の出身高校への訪問を実施し、学生の近況報告等を行った。さらに、教員が高校を訪れる形での模擬授業や学科説明も計36高校で実施した。 高校訪問　6月　北陸三県91校 9月　北陸三県67校 愛知県3校／岐阜県18校／新潟県2校／長野県5校 ［進学相談会］ 国公立志向の高い東海地方の進学相談会にも積極的に参加した。 進学相談会16回（北陸三県10回／愛知県3回／長野県1回／岐阜県2回） ［大学見学会］ 北陸3県の5校の高校生やその保護者を本学中央キャンパスに迎え、大学の説明や模擬講義を行った。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
② 入学者選抜の結果を検証し、入試制度・方法の改善につなげる。	Ⅱ-1-14	入試結果の分析及び入学者の追跡調査による検証を行い、2019 年度に実施予定の入試に向けて方法等の改善を行う。	教育企画委員会（入試部会）	2019年度入試結果を踏まえ、2020年度入試における生産システム科学科の一般推薦入試、一般入試に関する入学者選抜内容、実施方法の一部見直しを行い、入学者選抜要項、募集要項を作成、公表を行った。 また、各学科において、入試区分ごとに入学後の成績などを検証し、推薦入試合格者に対する課題提出などを実施している。	3
	Ⅱ-1-15	2020 年度実施の大学入学者選抜改革への円滑な対応に向け、大学入学共通テストへの転換に向けた対応を進めるとともに、個別選抜試験においては学力の３要素を総合的・多面的に評価するための準備を行う。	教育企画委員会（入試部会）	大学入学共通テストの情報収集のため、文部科学省、公立大学協会が主催する説明会に参加したほか、東海・北陸地方の大学の動向を調査し、9/11付で令和3年度（2021 年度）入学者選抜方法（一般選抜）の予告についてホームページで発表した（大学入学共通テスト　国語の記述式問題について、外国語「英語」の配点について　など）。 ［説明会等］ ・6/6　令和元年度入学者選抜に関する協議会（公立大学協会） ・6/20　平成31年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会（文科省） ・8/29　令和2年度大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第1回）（大学入試センター） ・12/3　令和2年度大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（第2回）（大学入試センター）	3

(4) 学生支援

中期目標	地域との連携・協力のもとに、教職員が一体となって組織的に学生一人ひとりの学業・生活を支援する。また、学生が１年次から自ら目指すべき将来像を明確にし、社会的・職業的自立を図るために必要となる能力を形成できるようキャリア教育を充実させるとともに、キャリアサポートセンター等によるキャリア形成支援を行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　－　(4) 学生支援					
① 職員が一体となって、学生一人ひとりの学業・生活を支援する体制を構築し、安心して学べる環境を提供する。	Ⅱ-1-16	大学生活の基本を学ぶとともに交流を深めるため、新入生を対象としたオリエンテーションや合宿を実施する。	各学部	全学部で、1年生を対象に、大学生活の基本を学び、学生相互及び学生・教員間の交流を促すため、新たに「きずな合宿」を開催した。（生産システム科学科、国際文化交流学科においては、小松市の山間部にある「大杉みどりの里」に1泊）。その後の学業・生活への前向きな姿勢と意欲を喚起することができた。 ・生産システム科学部（4/26-27）大杉みどりの里 ・保健医療学部（4/27）せせらぎの郷及びその周辺 ・国際文化交流学部（4/26-27）大杉みどりの里 また、前期・後期開始前には、各学科、学年別にオリエンテーションを開催し、履修やコース選択、生活面での指導を実施した。	4
	Ⅱ-1-17	相談教員（アカデミックアドバイザー）制度により、個々の学生に応じたきめ細かな支援を行う。	各学部	生産システム科学科では、全学生に相談教員を割り振り、履修ガイダンス時に各学生の学修意欲や生活態度、将来の希望、単位習得状況などについて丁寧な聞き取りを実施した。また、一部の学生には、学部長、教務担当教員を交えた面談を実施し、支援を行った。 看護学科では、各学年に3人の相談教員を付け（学生の卒業まで担当）、勉学から生活、進路全般に渡っての支援を行っている。2年生に対してはさらにきめ細かな個人面談を実施した。 臨床工学科では、各学年に2人の相談教員を配置し、学生全員に対し、教員2人で面談し、学習面から生活面、将来の目標についての相談を受け、アドバイスを行った。必要に応じて個人面談も実施した。 国際文化交流学科では、全学生に相談教員を割り振り、年度初めに個別面談を実施した。なお、1人の学生を複数の教員がフォローできるよう、1年次と2年次で相談教員は交代している。コース選択前など、特に学生と密にやりとりを行い、きめ細かな指導、支援を行った。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-18	健康診断の徹底、インフルエンザ予防等の保健管理センターによる健康支援のための取組を推進する。また、学生相談を随時実施し、相談しやすい環境づくりにも取り組む。	保健管理センター	学生定期健康診断を実施し、1・2年生全員が受診した。また、検診事後指導として、血圧と検尿の再検査を保健管理センターで実施し、要精密検査や要治療者には受診をすすめ、校医による事後相談も行った。 インフルエンザ集団予防接種を実施し、学生に対しては全学部のオリエンテーションで接種勧奨を行った結果、286人（57.4%）が接種した。 臨床心理士（公認心理師）による学生相談は、中央キャンパスと粟津キャンパスの2か所で実施し、相談者14人、延べ相談回数は300回となった。 その他、健康への興味関心を高めるため、「ほけかんだより」を発行し、学生及び教職員へメールで配信している（10回発行）。特に、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供は、1月以降4回実施した。 3月末から、学年毎の新学期前のオリエンテーションで感染予防について講話を行ったほか、マスクや消毒液の確保、体調管理に関する注意喚起、海外から帰国した学生への健康チェック表など、感染対策を実施した。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-19	授業料免除、奨学金受給、安全なアルバイト情報の提供など、学生生活の経済的 な支援を行う。	学生課	4月のオリエンテーションにおいて、授業料免除や奨学金などの経済支援について、学生に情報周知を行った。申請書類の不備などは学生に細やかな連絡を行い、適切に申請手続きを行った。 アルバイト情報については、求人内容や事業者をよくチェックし、有害なものでないことを確認し、学内掲示を行っている。 また、中央キャンパスに通う学生への昼食補助として、周辺店舗で使用できる補助券（200円×10枚）を月々交付し、学生への経済支援とあわせ、地域経済にも寄与した。 ［授業料免除］ 前期　申請者：27人／全額免除者：15人／半額免除者：7人 後期　申請者：27人／全額免除者：11人／半額免除者：16人 ［修学支援新制度（R2年度～）］ 申請者：65人 ［奨学金　※2019年度新規受給者］ 日本学生支援機構奨学金　給付：11人／貸与一種：75人／二種：45人 地域医療支援看護師修学資金（石川県）　貸与：2人 能美市育英資金奨学生　貸与：1人 済生会兵庫県病院　貸与：1人 ［アルバイト情報の提供］※掲載期間は1か月 全194件 ［ランチ助成券］ 配布月：8か月（4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月） 対象：前期　全学部1・2年生（合計497人） 後期　全学部1年生、国際文化交流学部2年生（合計331人） 利用（換金）実績：5,883,400円	4
	Ⅱ-1-20	学生アンケートの実施等により、学生の要望を把握し、キャンパスライフの改善 につなげる。	学生課	学生の自由な意見を聞き、キャンパスライフの改善に活かすことを目的とした「こまつ未来箱」を中央キャンパスだけでなく、後期から粟津・末広キャンパスにも設置した。要望と大学としての対応については、12月に実施した「アメニティ向上委員会」で報告し、学内で共有化を図った。 ［こまつ未来箱　要望件数］58件 ・教育に関する要望：11件 ・施設アメニティに関する要望：34件 ・その他：13件	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-21	サークルの立ち上げや活動の場の提供など、学生の課外活動を支援する。	学生課	学生数の増加に伴い、サークル数も35団体に増加した。 サークル活動の活性化、適切な実施に向け、サークル代表者会議を5回開催し、活動報告の義務化や市内施設等の利用方法、スポーツ安全保険の加入などについて説明を行うとともに、行政や民間からのイベント・プロジェクト参加要請などの情報提供を行った。その情報提供から、地域活性化サークルが金沢ジャーマンベーカリーとコラボレーションし、商品開発・販売までに発展したケースもある。 また、10月には「学生サークルの大学公認基準」を策定し、団体活動における学研災の適用や活動補助を明確化した。 ［令和元年度サークル登録数］ 35団体（体育系17、文科系18）　※H30年度実績　29団体	4
	Ⅱ-1-22	学部学科の専門性に沿った学術書の充実を図り、学生の自主的な学修を支援する。また、アカデミック・スキルズにおける図書館利用に関する授業や、図書館ツアーなどにより、図書館利用の促進を図る。	附属図書館	図書の購入は、司書による選書に加え、各教員が選書を行う「教員推薦図書枠」を全学科に設定した。また、生産システム科学科、看護学科及び臨床工学科の重点図書選定を実施し、粟津図書館と末広図書館における専門科目等の図書の充実を図った。 ［附属図書館蔵書数　令和2年3月31日時点］ ・中央図書館　11,862冊　※H30年度　10,099冊 ・粟津図書館　39,046冊　※H30年度　39,237冊 ・末広図書館　11,493冊 ※粟津図書館の蔵書数減は、末広図書館に保健医療学部関連の図書を移動したことによるもの。 また、図書館の利用促進を図るため、4月には主に新入生向けの「図書館ツアー」を3回実施したほか、後期には看護学科及び国際文化交流学科からの依頼を受け、テーマ別基礎ゼミ5クラスにおいてガイダンスを実施し、図書館の活用法や検索システムなどを学生に伝え、学修を支援した。	4
	Ⅱ-1-23	３キャンパスそれぞれの特徴に沿った図書館整備を実施し、各館の運営体制を構築する。	附属図書館	末広図書館の供用開始に伴い、職員4人（司書3人、パート職員1人）による3館運営を行った。司書不在時の対応手順を6月に取りまとめ、円滑な業務継続体制の構築を進めた。	4
	Ⅱ-1-24	自習室の利用実態や学生のニーズを踏まえ、図書館と連携した自習室の学習環境の維持向上を図る。	附属図書館	中央キャンパス自習室は、近隣の高校生の利用が増加しているが、本学学生からの要望などを受け、試験期間前1週間及び試験期間中は本学学生の利用に限定し、学内と学外利用者双方の使いやすさの調整を図っている。また、学習環境の向上に向け、デスクライトを全50席中39台に設置した。 ・自習室利用（学外者）　2,412人	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
② 将来の社会的・職業的自立に資するキャリア教育を実施するとともに、キャリアサポートセンター等によるキャリア形成支援を行う。	Ⅱ-1-25	学年進行に応じた適切なキャリア形成支援を実施していくため、学生の入学から 卒業に至るまでのキャリア形成支援プログラムを検討する。	キャリアサポートセンター	5月に、各学科の担当教員、事務局長、学生係長、キャリアコンサルタントによる「キャリアサポートセンター会議」を立ち上げ、各学科の就職支援方針や体制、キャリアデザインセミナーや各種ガイダンスなどの企画、次年度計画などについて協議を行った。 また、キャリアサポートセンター会議には、産学連携コーディネーターにも出席を依頼して地元企業等の情報などを共有し、キャリア支援のための体制強化を図っている。 ・キャリアサポートセンター会議　６回	3
	Ⅱ-1-26	キャリア支援を更に充実させ、学生の就職意欲、職業観の醸成を図る。	キャリアサポートセンター	キャリアデザインセミナーや各種ガイダンス、企業見学などの企画を開催し、地域の産業への理解を促進させ、職業観の醸成を図るなど、学年進行に応じたキャリア支援を行った。また、後期からキャリアカウンセリングを開始し、サポート体制の充実を図った。 ［キャリアデザインセミナー・各種ガイダンス］ ・キャリアデザインセミナー 11月～12月（全4回）　生産システム科学科1年生全員 1月（全8回）　国際文化交流学科2年生全員 ・インターンシップガイダンス（1/29）　参加者：99人 ・公務員ガイダンス（1/29）　石川県庁職員を講師に実施　参加者：32人 ［企業見学など］ ・ＭＥＸ金沢（第57回機械工業見本市）5/16 生産システム科学科2年生79人が参加、ブース見学など ・企業見学バスツアー（8/7） 訪問先：中村留精密工業、澁谷工業 参加者：40人（生産38人、看護2人） ・企業見学会　参加者：延べ54人 ①大京（11/13）　17人 ②コマニー（11/27）　21人 ③クロダレース（12/11）16人 ［その他］ ・生産システム科学科　シーズ・ニーズマッチングシンポジウム（11/8） 地域のものづくり企業4社のプレゼンなどを学生も聴講 参加者数：生産システム科学科2年生79人	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-27	就職先となる企業、医療機関、各種団体との関係づくりを促進し、積極的な情報 提供を含めた、就職支援のための環境を整える。	キャリアサポートセンター	インターンシップの実施に向けて、ジョブカフェ石川との打ち合わせや、キャリアサポートセンター会議において単位付与の定義や対応方法の検討などを進めた。授業としてのインターンシップは、生産システム科学科が「学外技術体験実習Ａ、Ｂ」、国際文化交流学科が「インターンシップⅠ、Ⅱ」として設定されており（いずれも3年次）、各学科において受入れ先への協力依頼や調整などの準備を進めた。 また、学科別に開催した「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」や、キャリアサポートセンター主催の「企業見学会」などを通して、就職先、インターンシップ先となる業界や各種団体等との関係づくりを積極的に行った。	4
	Ⅱ-1-28	キャリアデザイン・チーム論の授業において、本学教員や産業、医療、国際など の分野で活躍する学外講師による講義を取り入れ、学生に職業選択やキャリアパスについて考える機会を提供する。	各学部	学部学科ごとに、将来の就職先・活躍の場の想定のもと、学外講師を招いて講義を行った。業界の現状や課題、求められる人材などについて学生に現場の生の声を提供し、キャリアパスを考える機会となった。 ［生産システム科学科］ ・5/8　元谷公一氏（一般社団法人日本自動車連盟） ・5/22　細野 昭雄氏（㈱アイ・オー・データ機器代表取締役会長） ・5/29　黒本 和憲氏（㈱コマツ顧問） ・6/5　大山 一浩氏（日立製作所） ［保健医療学部］ ・5/22　堤　敦朗氏（金沢大学国際機構） ［国際文化交流学科］ ・岸江　英寿氏（マイナビ　就職情報事業本部 企画広報統括本部）	3
③ 地域の連携･協力を得て、インターンシップや学外実習等を実施するほか、課外活動を含む学生生活の充実を図る。	Ⅱ-1-29	協力企業・機関・施設・団体等を幅広く募り、教育・研究・社会連携・大学運営 にかかる、多様な連携協力のための体制を拡大する。	地域連携推進センター	シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催や、研究関連イベントへの出展、産学官連携コーディネーターによる北陸３県を中心とした企業訪問により、大学と企業や各種団体との関係構築を推進している。 ［企業等との連携協力体制］ ・協力企業等　319件　※H30年度：279件 （内訳　石川県：182、福井県：57、富山県：59、その他：19、海外：2）	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-30	インターンシップや学外実習先の確保を進めるとともに、実習テーマ、実施体制 等の具体的な内容について調整を行い、授業計画や到達目標に沿った活動とするための環境を整える。また、実施に当たって担当教員は、実習先の指導者と緊密に連携を図り、実習効果が上がる環境調整を行う。	各学部	生産システム科学科は、3年次の「学外技術体験実習」に向け、協力企業を中心に実習概要の説明とアンケートを実施し、30社、合計80人の受け入れ先を確保した。 看護学科は、１年次後期の「基礎間実習Ⅰ」、2年次後期の「小児看護実習Ⅰ」、「精神保健看護実習Ⅰ」、「基礎看護実習Ⅱ」は、いずれも受け入れ先との綿密な連携、事前準備により環境を整備し、実習を行った。 臨床工学科は、担当教員が臨床実習予定機関ごとに「血液透析業務」、「人工心肺業務」、「人工呼吸器業務」、などの実習内容を調整した。 国際文化交流学科は、3年次の「地域実習」に向け、担当教員6人が受け入れ先企業やＮＰＯとの調整、協議を行い、実習内容を確定させた。12月には各プロジェクトの内容を学生に公表し、希望調査を実施、1月に決定した。	3

中期計画		番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
		Ⅱ-1-31	国際情勢と研修地域の安全面に十分配慮した上で、海外インターンシップを実施する。	国際交流センター	カンボジアアンコール遺跡整備公団インターンシップ、産学合同シリコンバレー研修、石川県ルクセンブルク青年交流事業の3件を実施した。学生の安全確保、充実した学びにつなげるため、担当教員や保健管理センター等による事前研修などを行った結果、事故などなく、いずれも適切に実施された。 また、海外渡航時の安全対策として、渡航届出提出の徹底、学研災付帯保険への加入義務付けを行ったほか、万一の事故等に迅速に対応するため、危機管理サポートに加入し、危機管理体制の構築を推進した。 ［カンボジアアンコール遺跡整備公団インターンシップ］（8/18～9/1） 金沢大学環日本海域環境研究センターと共同で実施　参加者：本学学生3人 5/8～5/15　書類選考（1次選考）12人応募 5/15　面接試験（2次選考）実施、3人選抜 8/18～9/1　インターンシップ実施（アンコール世界遺産公園の水環境の維持管理、地域社会支援、観光開発・誘致などの業務に従事） 10/31　学内報告会 1/7　小松市長への報告会（小松市役所） 1/31　報告書発行（HPで公表） ※本事業は在カンボジア日本大使館の「日メコン交流年2019」に認定された ［産学合同シリコンバレー研修］（9/1～9/7）※新規 3月に開設したシリコンバレーオフィスを活用した取組の第1弾として実施 参加者：市内社会人4人、本学学生8人 8月　社会人の募集にあたり、小松商工会議所会員企業へチラシ送付 9/1～9/7　研修実施（現地企業視察や、ワークショップなど） 10/31　研修報告会開催（グループ別課題研究発表など） 12月　成果報告書発行（HPで公表） ［石川ルクセンブルク青年交流事業］（2/23～3/5）※新規 これまで、小松短期大学が実施してきたものを継承（県補助事業）。 参加者：学生2人 ルクセンブルク商工会議所、カーゴルクス航空、ルクセンブルク大学等視察 ［危機管理体制の構築］ ・渡航届出提出の徹底 ・大学で実施する渡航プログラムに参加する場合、学研災付帯海外旅行保険への加入義務付け ・保健管理センターによる事前の保健指導 ・教職員対象の危機管理セミナー開催（1/23）約20人参加 ・学生対象の危機管理セミナー開催（2/13）約50人参加	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-32	地域行事への学生参加を支援する。	地域連携推進センター	地域とのつながりの中で学び、大学として地域に貢献していくため、地域で行事等に積極的に参加した。参加は学生の希望に基づいて行うことを基本とし、学生の自主性や積極性を重視した。 ［地域行事への参加］ ・お旅まつり（5/11）　曳山の曳手として、学生及び教職員が参加 　参加者：33人（内、学生20人） ・小松市どんどんまつり（10/12-13）※台風のためイベント中止 （予定していたもの） 　1日目：あんどん行列とどんどんこまつ輪踊り参加 　2日目：看護学科教員を中心に健康相談ブース「こまだい保健室」開設 ・小松市公民館フェスタ（7/14）　地域活性化サークル出展 ・小松ガス展（8/30）ダンスサークル出演 ・南加賀ボランティアカーニバル（9/1）ダンスサークル出演 ・木場潟西園地ライトアップ点灯式イベント（10/19）吹奏楽サークル出演 ・小松市福祉ふれあいフェスティバル（10/27）軽音サークル出演 ［各種ボランティア参加］ ・お旅まつり　通訳ボランティアの協力（5/11）参加者：4人 　学生4人がお旅まつりの通訳ボランティア業務に参加 ・なごみ祭り（6/1） 　看護学科学生（19人）が、こまつ看護学校の学生と共に参加 ・クリーンビーチいしかわ（6/9） 　海岸清掃活動に学生及び教職員が参加、参加者：35人（内、学生19人） ・JAPANTENT　バスツアー案内ボランティア（8/23）　参加者：2人 ・石川県障害者ふれあいフェスティバル（9/22）　参加者：2人 ・ラグビーワールドカップパブリックビューイング小松会場（9/20） ・スマイル木場潟2019（9/22）　参加者：10人 ・第38回KOMATSU全日本鉄人レース2019（9/29） 　事前準備からボランティア参加　参加者：2人 ・こまつ水辺クリーンデー（3/15）※新型コロナウイルスの影響で中止 ［その他］ ・小松市手話講座（7/17～10/9　全12回）　参加者：学生5人、教員1人 ・防災士講習（11/9・10）　参加者：学生5人	4

(5) 地域の教育機関との連携と大学院

中期目標	地域の教育機関等と連携し、望ましい高大接続のあり方に向けた改革を行う。また、地域の小学校・中学校・高等学校等との連携・協力により、子どもたちの教育の充実を支援する。 社会の諸問題を解決し、また、教員・学生の質の向上を図るため、経費等につき十分検証しながら、大学院設置の可能性を追求する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　－　(5) 地域の教育機関との連携と大学院					
① 地域の教育機関等と連携し、望ましい高大接続のモデルを策定する。 ② 地域の小学校・中学校・高等学校等との連携・協力により、子どもたちの教育の充実を支援する。	Ⅱ-1-33	高大接続のモデル策定に向けた検討を推進する。	地域連携推進センター	学長、副学長、地域連携推進センター長、事務局長と市立高校校長、教頭等との意見交換を行い、連携活動を継続して実施するとともに、「高大連携クラス」の新設など新たな取組みの検討を行った（詳細は、Ⅱ-1-34参照）。	4
	Ⅱ-1-34	地域の高等学校等と連携した教育プログラムを実施する。	地域連携推進センター	地域の教育を支援するため、小松市立高校と連携し、課題探求授業への講師派遣、英語の特別講座、海外からの留学生との交流などを実施した。 また、小学生の夏休み自由研究を支援するため、サイエンスヒルズこまつと連携し、「公立小松大学教員自由研究相談」を実施したほか、サイエンスヒルズこまつが実施するイベントへの協力も行った。 ［小松市立高校　出張講座］ ①総合的な探求の時間　講師派遣（9月、11月、2月の計3回） 全１・2年生約390人が対象 課題の見つけ方、調べ方（研究的視点）、中間発表への講評など 派遣教員：生産システム科学科富澤敦教授、看護学科鋤柄増根教授、 臨床工学科平山順教授 国際文化交流学科岩田礼教授・千葉准教授 ②特別授業「基礎英語学習法」・「英語読解力向上」の開催 担当：横川副学長、島内教授（小松短期大学） 全14回開催（前期8回、後期6回） （各回5～20人が受講） ［プリンスオブソンクラ（タイ）からの短期留学生との交流会（5/14）］ プリンスオブソンクラ大学からの短期留学生（学生5人）と小松市立高校の生徒7人との交流会を開催した。 ［サイエンスヒルズこまつ夏休み自由研究相談］（8/17・18） 小学生を対象に、生産システム科学科及び看護学科、臨床工学科教員（計4人）が、夏休み自由研究のまとめ方の相談に応じた。 ［サイエンスヒルズ特別企画「プロフェッショナルトーク」］（2/23） 生産システム科学科香川博之教授が講演	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
③ 教員と学生の質の向上を図り、多様化する社会の諸問題を解決するため、経費等につき検証しながら、大学院博士前期課程と後期課程の設置を図る。	Ⅱ-1-35	公立小松大学設置の基本理念に合致した大学院の設置に向け、具体的な検討を行う。	全学	教育研究審議会と経営審議会で大学院サスティナブルソルーション研究科（仮称）の設置構想が承認され、これを受けて、「修士・博士課程設置検討ワーキンググループ」を組織し、教科目等について検討を開始した。 また、教科目案に基づき、学士課程の学年進行とともに定年を迎える教員の後任となる学部大学院兼任教員の募集を開始した。（募集期間：3月～2020年5月）	4

(6) 社会人教育

中期目標	身近な学びの拠点として、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施するとともに、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図り、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　ー　(6) 社会人教育					
① 地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出するため、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施する。	Ⅱ-1-36	社会人教育プログラムを実施する。	地域連携推進センター	ものづくり企業の従業員を対象に、ものづくりに必要な知識を一貫して体系的に学ぶことができる実践的な教育プログラムをとして、「ものづくり人材スキルアッププログラム」を開講した。実施にあたってはものづくり企業の実務家を講師とし、受講生が企業の実務に活かせる内容を学べるプログラムとした。 ［コース］ ①総合コース（Ａコース、Ｂコース）、②Ａコース（生産管理技術）、 ③Ｂコース（工場経営管理）、④選択Ｂコース ［参加者］ ・前期（5/17～9/2）　外部講師　11人 総合コース3人、Ａコース3人、Ｂコース2人、選択Ｂコース5人 ・後期（10/17～2/6）　外部講師　11人 総合コース3人、Ａコース2人、選択Ｂコース2人受講	4
	Ⅱ-1-37	市民公開講座を実施する。	地域連携推進センター	市内企業等からのニーズを踏まえ、品質管理検定受験講座を実施した。 ［品質管理検定受験講座］ 受講者　前期　3級：50人　2級：10人 後期　3級：43人　2級：－	3
	Ⅱ-1-38	小松市、小松商工会議所、まちづくり市民財団、社会福祉協議会と協同で、こまつ市民大学の運営に携わる。	地域連携推進センター	小松市、商工会議所、まちづくり市民財団、社会福祉協議会との間で、「こまつ市民大学の開設及び運営に関する協定書」を締結。地域連携推進センター長が運営委員として参画し、本学教員が「こまつ市民大学」の講師を務める講座を多数開講した。ものづくり、健康、語学、国際情勢など、本学の特徴を生かした多彩な内容となり、また、昨年度に引き続き講義の多くは、本学中央キャンパスを会場とした。 ［実績］ ①第1期追加講座（4月～7月） 講座数：4（いずれも、本学教員が講師を担当） 講師数（本学教員）：延べ8人 ②第2期講座（8月～令和2年7月） 講座数：32（内、本学教員が講師を担当するのは13） 講師数（本学教員）：延べ25人	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
② 地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出するため、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図る。	Ⅱ-1-39	教育研究に支障のない範囲で、地域の利用者に対し、附属図書館や英語カフェ等を開放する。	附属図書館、総務課	自習室は、特に近隣の高校生の利用が伸びており、利用実績は2,412人となった。 ［附属図書館学外利用者数］ 令和元年度　2,488人　※H30年度　1,473人 （内、自習室利用　2,412人） 英語カフェは、小松市国際交流協会との共催イベント「英会話カフェ」や、小松市立高校生と本学への短期留学生の交流会の会場としての利用や、小松青年会議所とテーマ別基礎ゼミのワークショップを開催するなど、さまざまな市民利用があった。	4
	Ⅱ-1-40	大学施設の効率的・効果的な運用・管理を図り、本学の運営に支障のない範囲で大学施設の市民利用を推進する。	財務課	年間通じて、中央キャンパスは、附属図書館及び自習室（高校生・大学生に限る）を、粟津キャンパス及び末広キャンパスでは、学生食堂および附属図書館を一般に開放している。また、その他の教室等においては、教育研究活動に支障のない範囲で、希望者からの申請に基づく有償での一般利用を行っている。 ［施設利用］338件（平成30年度：395件） ・中央キャンパス　50件（うち26件はこまつ市民大学） ・粟津キャンパス　287件（うち185件は運動場利用） ・末広キャンパス　1件	4

（２） 小項目別業務実績・自己評価結果（詳細）

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標

２　研究に関する目標

(1) オリジナルな研究の推進

中期目標	南加賀の研究拠点として、特色ある基礎研究、応用研究、学際研究、分野融合型研究に取り組み、発明・発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、成果を世界に発信する。併せて、地域が抱える課題解決や住みよさ向上等のニーズに応じた研究を組織的に推進する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　研究に関する目標を達成するための措置　教育に関する目標を達成するための措置　－　(1) オリジナルな研究の推進					
① 南加賀の研究拠点として、特色ある基礎研究、応用研究に取り組み、発明・発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、成果を世界に発信する。	Ⅱ-2-1	学部学科の研究内容を踏まえ、研究機器の整備、各種規程やガイドラインの制定、研修の実施及び研究に関する審査委員会の開催等、ソフト・ハードの両面における研究環境の向上に努める。	研究・社会連携委員会	各学科に対し、研究支援として新たに「研究発展・向上費」（上限50万円）を設け、募集を行った。生産システム科学科と臨床工学科においては若手研究者の支援のための研究機器の購入、看護学科においては今後の研究発表のための共通機材購入、国際文化交流学科においては第2号となる紀要の発行が行われた。 また、本格的な実験実習の開始や研究活動にあたり、薬品管理に関する規則及びマニュアルを定め、安全管理体制を構築した。 人を対象とする医学系研究や、遺伝子組み換え実験、動物実験の実施にあたっては、定期的に審査委員会を実施し、適切な研究活動に向けたチェック体制を運営している。 ［審査実績］ ・人を対象とする医学系研究倫理審査：11件 ・遺伝子組換え実験審査：1件 ・動物実験審査：実験2件、施設等2件 施設面においては、9月に末広キャンパスが竣工し、保健医療学部の研究機能を末広キャンパスに集約させた。また、粟津キャンパスでは、学生ホール及び研究室、実習室、トイレの改修工事、エレベーターの新設工事を実施し、研究環境の整備が完了した。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-2-2	特色ある研究や地域をフィールドとする研究を支援する。	研究・社会連携委員会	本学独自の研究支援制度として、特色ある独創的研究、産業・医療・国際上の問題等の解決に向けた研究を対象とした、「公立小松大学重点研究『みらい』」を新たに設けた。4月に募集を行ったところ、8件の応募があり、審査の結果以下の3件を採択した。 ［採択された研究］ ・生産システム科学科　梶原祐輔准教授「人工知能を用いた高齢ドライバーの交通事故防止システム開発に関する研究」 ・国際文化交流学科　一ノ渡忠之准教授「日ロ地域間経済関係の現状と可能性～石川県の経済関係の多様化に向けて～」 ・臨床工学科　李鍾昊准教授「我々の「みらい」である子供の運動発達モニタリングシステムの構築」 ［公立小松大学重点研究「みらい」　支援の概要］ 支援金額：1研究計画につき50万円 以内／年 研究期間： 1または2年間 採択件数： 新規 3件程度／年 複合大学としての強みを生かし、学部横断的な取り組みを推進するため、若手教員の研究交流会「Salon de K」を実施した。各学科から2人程度が参加し、意見交換などを行った。	4
	Ⅱ-2-3	論文・著書の発表や国際シンポジウム等での発表を奨励するとともに、これらの実績の把握・とりまとめを行う。	研究・社会連携委員会	半年に１度、教員の研究業績の取りまとめを行った。学会報告、学術論文、著書のいずれも昨年度を上回る実績となっている。 ［研究関連業績］ ・学会報告　：144件（完成年度目標値：100件）H30年度：83件 ・学術論文　：99編（完成年度目標値：70編）H30年度：82編 （・うち外国語論文：61編（完成年度目標値：30編）H30年度：53編） ・著　書　：23編（完成年度目標値：５編）H30年度：11編 また11月には、中央キャンパスを会場に「日本モンゴル学会2019年度秋季大会」が開催された。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-2-4	研究活動や成果をホームページや報道を通じて発信する。また、地域に対して本学の研究力を紹介する取組を展開する。	広報室	学科別に「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を開催し、本学の研究力の発信を行うとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。特に生産システム科学科では、2年生全員が参加し、学生に地域の産業やものづくり文化を学ぶ機会の提供にもなった。 「宇宙とツーリズムーフロンティアの向こうへ」と題した市民公開フォーラムを開催し、ゲストの山崎直子学長特別補佐とともに、国際文化交流学部の教員２人が発表を行った。 国際文化交流学部では、紀要「国際文化第2号」を制作し、大学HP上でも公開を行った。なお紀要では、上記市民公開フォーラムについて、パネリストの山崎直子氏とモデレーターの寺門和夫氏にも執筆を依頼し、講演内容のまとめと考察を掲載した。 ［シーズ・ニーズマッチングシンポジウム］ ・生産システム科学科（11/8） 研究発表（池田准教授、朴准教授）、企業プレゼン（4社）、 シリコンバレー研修発表、意見交換会 参加者：企業25社約40人、教員17人、学生（2年生）80人 ・国際文化交流学科（12/14） 講演「2015年欧州移民危機後の世界：移民と難民の現在」 安富淳准教授（宮崎国際大学）、意見交換会 参加者：38人（学外：30人、学内8人） ・臨床工学科（1/25） 研究発表（李准教授、野川准教授）、 地域の医療関係者による発表（やわたメディカルセンター勝木保夫理事長、金沢大学附属病院ＭＥ機器管理センター櫻井修技士長、井村内科・透析クリニック西木裕一）、意見交換会 参加者：26人（学外：17人、学内:9人） ・看護学科（2/8） 研究発表（徳田教授、坂本教授）、 講演「発達障害のあるひとへの理解とかかわり～わかりやすいコミュニケーションのために～」川畑治代氏（発達障害者支援センターパース） 参加者：57人（学外：33人、学内：24人） ［市民公開フォーラム「宇宙とツーリズム」］（10/26） サイエンスヒルズ３Dスタジオ　120人参加 パネリスト：山崎直子氏（学長特別補佐）、 杓谷茂樹教授、中子富貴子准教授（国際文化交流学部） モデレーター：寺門和夫氏（客員教授）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
② 地域が抱える問題解決等に資する研究を推進する。	Ⅱ-2-5	地域が抱える産業、医療、国際上の問題等の解決に向けた研究を支援する。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	研究支援に向け、「研究・発展向上費」（Ⅱ-2-1参照）や重点研究「みらい」（Ⅱ-2-2参照）などの制度を創設し、特色ある研究や地域の問題解決に向けた研究の推進を支援した。	3

(2) 共同研究

中期目標	地域における「知の源泉」として研究を活性化させ、地域とともに発展していくため、他大学、企業等と共同研究や受託研究等の産官学連携を推進する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　研究に関する目標を達成するための措置　－　(2) 共同研究					
地域における「知の源泉」としての役割を果たすため、他大学、企業等と共同研究や受託研究等の産官学連携を推進する。	Ⅱ-2-6	近隣自治体や民間企業等とのネットワークを強化し、共同研究、受託研究の推進に努める。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催や、研究関連イベントへの出展、産学官連携コーディネーターによる北陸３県を中心とした企業訪問により、大学と企業や各種団体との関係構築を推進している。 また、ホームページに産学連携コーディネーターの紹介や技術相談問い合わせフォームを新たに作成し、地元企業等からの相談受付体制を整備した。 ［企業等との連携協力体制］ ・協力企業等　319件　※H30年度：279件 （内訳　石川県：182、福井県：57、富山県：57、その他：19、海外：2） ［共同研究・受託研究］ ・共同研究　：７件　11,737,000円　※H30年度：７件　3,350,500円 ・受託研究　：　－　※H30年度：１件　300,000円 （完成年度目標値：合計10件）	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-2-7	本学の研究シーズを外部に継続的に発信するとともに、他大学、企業や各種団体、自治体等との各種プロジェクト活動を推進する。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	学科別に「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を開催し、本学の研究力の発信を行うとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。また、産学官連携イベントへの出展も積極的に行い、研究シーズの発信や地域連連携推進センターの活動をPRした。 また、小松市との連携協力が進み、大学コンソーシアムいしかわの「地域課題研究ゼミナール支援事業」で本学申請の2件が採択されたほか、小松市・能美市で開催された複合型文化イベント「KUTANism」で本学学生のボランティアガイドツアーが実施された。保健医療の分野では、「世界糖尿病デー」で小松市医師会糖尿病連携推進協議会との共催により、中央キャンパスにおいて主に子供たちを対象としたイベントを実施した。いずれも、学生を交えた活動により、プロジェクトの活性化に大いに貢献した。 ［シーズ・ニーズマッチングシンポジウム］ ※詳細は、Ⅱ-2-4参照 ［産学官連携イベントへの出展（本学の研究シーズの発信、地域連携推進センターの活動PR等）］ ・ＭＥＸ金沢　（5/17～19　石川県産業展示館） ・北陸技術交流テクノフェア　（10/24・25　福井県産業会館） ・Matching HUB Kanazawa 2019（11/12 ANAクラウンプラザホテル金沢） ［自治体、地域の団体等との連携］ ①大学コンソーシアム石川　地域課題研究ゼミナール支援事業（2件採択） ・地域連携推進センター長　真田教授・稚松はつらつ協議会「稚松が一番」 「地域ポータルサービス（アプリ）を活用した地域情報の効果的な発信によるコミュニティ活動の活性化」 ・国際文化交流学科中子准教授・月津校下地域活性化協議会 「地域活性化協議会が主体となった乗合ワゴンの運営体制の構築」 ②「KUTANism」（9/16～10/14　小松市・能美市共同開催）への協力 ・国際文化交流学科　中子准教授が実行委員として参画 ・国際文化交流学科の2年生5人が、九谷陶芸村で開催された「九谷さんぽ」のボランティアガイドとして活動（全6回） ③「世界糖尿病デー」（11/14　小松市医師会糖尿病連携推進協議会共催） ・学長特別講演「もしも、おじいちゃんやおばあちゃんが糖尿病になったとき、きみにできること」 ・中央キャンパス内クイズラリー、ライトアップ点灯式 参加者：子供17人、学生・教職員・関係者約20人	4

(3) 外部資金

中期目標	研究を充実・発展させるため、科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた組織的な取組みを推進し、自己財源確保に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　研究に関する目標を達成するための措置　－　(3) 外部資金					
科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた組織的な取組みを推進し、自己財源確保に資する。	Ⅱ-2-8	科学研究費補助金等の外部資金獲得に向け、情報収集や研修会の開催を通じて、申請及び採択の拡大に努める。	研究・社会連携委員会、財務課	科学研究費助成事業の応募支援として、村本健一郎氏（金沢大学監事）を招き、教員向けの研究所作成研修会を開催した。また、科研費以外の外部資金に関する情報も随時教員へ周知し、応募申請等の資料作成支援を行った。 ［科研費採択実績］ ・新規　９件（基盤Ｃ　６件、若手　２件、国際共同Ａ　１件）※H30年度：6件 ・継続　19件（基盤Ｂ　２件、基盤Ｃ　15件、ｽﾀｰﾄ支援　１件）※H30年度：13件 ・計　　28件　40,100,000円　　※H30年度：19件　25,900,000円 （完成年度以降目標値 15件） ［科研費応募実績］ ・ｽﾀｰﾄ支援（５月）　　２件（内採択　０件） ・国際共同研究強化Ｂ（５月）　１件（内採択　０件） ・Ｒ２年度科研費事業（11月）　48件 ［その他助成金採択実績］ ・新規　14件　　11,534,000円 （I-O DATA財団、三谷研究開発支援財団、澁谷学術文化スポーツ振興財団 等）	4

３　国際交流に関する目標

（1）海外大学等との交流

中期目標	協定締結校を開拓するとともに、海外大学等との教職員・学生交流、国際共同研究、シンポジウム・セミナー開催等を推進する。これにより、公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　国際交流に関する目標を達成するための措置　ー　（1）海外大学等との交流					
① 公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図るため、協定締結校を開拓する。 ② 公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図るため、海外大学等との職員・学生交流、国際共同研究、シンポジウム・セミナー開催等を推進する。	Ⅱ-3-1	グローバル人材養成のため、海外大学等との交流協定締結を拡大するとともに、学生交流をはじめとした協定校等との交流活動を展開する。	国際交流センター	新たに大学間協定を5件、部局間協定を3件締結し、協定は累計13件（大学間：8件、部局間：4件、その他：1件）となった。また、海外留学規程や申請書類などの整備を進め、協定に基づき、長期留学及び短期留学の派遣・受け入れを実施したが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、春休み期間中に予定していた短期留学プログラム3件を中止した。 ［新たな協定の締結］ ○大学間協定 ・中国　常州大学（5/8） ・マレーシア　トゥンクアブドゥルラーマン大学（10/24） ・アメリカ　オースティンピー州立大学（11/6） ・タイ　ランシット大学（12/11） ・タイ　泰日工業大学（1/16） ○部局間交流協定 生産システム科学部 ・タイ　ﾓﾝｸｯﾄ王立工科大学ﾄﾝﾌﾞﾘｰ校産業教育技術学部（12/17） ・台湾　国立中山大学工学部（2/17） 国際文化交流学部 ・中国　東南大学外国語学院、海外教育学院（6/13） ［交換留学、短期留学］ ○長期留学　派遣（6人） ・台湾　国立中央大学　（R元.9～R2.3）：2人（R元.9～R2.8）：2人 ・中国　東南大学　（R元.9～R2.3）：1人 ・中国　南京大学　（R元.9～R2.3）：1人 ○長期留学　受入（5人） ・台湾　建国科技大学（H31.4～R2.3）：1人　（R元.4～R2.3）：1人 ・中国　常州大学　（R元.9～R2.3）：1人　（R元.9～R2.9）：1人 ・中国　東南大学　（R元.9～R2.3）：1人	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				○短期留学　派遣（30人） ・中国　東南大学　5人（9/1～9/10） ・台湾　建国科技大学　19人（2/15～3/14） ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ　ｵｰｸﾗﾝﾄﾞ大学EnglishAcademy　6人（2/15～3/14） ※以下は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、中止 ・中国　常州大学　7人（2/26～3/24） ・ﾏﾚｰｼｱ　トゥンクアブドゥルラーマン大学　11人（3/10～3/24） ・タイ　プリンスオブソンクラ大学　4人（2/26～3/8） ○短期留学　受入（5人） ・タイ　プリンスオブソンクラ大学　5人（5/13～5/24）	
	Ⅱ-3-2	外国人留学生や研修生の受け入れを推進するとともに、宿泊先の確保や日本語教育支援など留学生受入環境の整備を行う。	国際交流センター	外国人留学生は、長期5人、短期5人、計10人を受け入れ、いずれも、本学学生寮（粟津キャンパス内）に滞在した。長期留学生には、買い物等生活のための移動手段として、レンタル自転車なども準備した（利用に際しては、自転車保険の加入を条件）。 長期留学生への日本語教育支援として、週1回、中央キャンパスで日本語教育を実施した。1月に開催された小松市国際交流協会主催の日本語スピーチコンテストでは、2人が優秀賞を受賞するなど、学習成果があがっている。 留学生の日常生活サポートとしては、「チューター制度」を創設し、学生に登録を呼びかけた（6人が登録）。9月から受け入れた4人の留学生には、各1人のチューターが付き、学内外の案内や行政手続き等の補助、生活立ち上げのための買い物の補助などを行い、スムーズに留学生活がスタートできるよう支援した。	4

(2) 地域における国際貢献

中期目標	「国際都市こまつ」の一層の推進に資するため、地域の国際活動や国際関連課題解決に協力し、地域と世界の懸け橋としての役割を果たす。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3　国際交流に関する目標を達成するための措置　ー　(2) 地域における国際貢献					
地域と世界の懸け橋として、「国際都市こまつ」の発展に貢献するため、国際活動や国際関連課題解決への支援・協力を行う。	Ⅱ-3-3	地域の多文化理解や地域の国際化に資する取組を行う。	地域連携推進センター、国際交流センター	小松市や小松市国際交流協会等と連携し、海外からの視察団受入れや、国際情勢について学ぶ「こまつ市民大学」の開講、英語スピーチコンテストの審査員協力など、幅広い取組により「国際都市こまつ」の発展に貢献した。 ［訪問団・視察の受入］ ・JICA青年研修事業の視察受け入れ（7/5） アフリカ13か国から14名が本学を視察し、ものづくり人材ｽｷﾙｱｯﾌﾟ講座についての紹介や、講座修了生(3名）との意見交換会などを実施 ・スウェーデンウメオ市からの訪問団受入（8/26） 木村副学長が「日本のモノづくり哲学」について講演 ・ロシアアンガルクス市　訪問団受入（9/20） アンガルクス市長等7人が来学。学長等との懇談 ・「JENESYS2019」の受入（11/22） インドの学生とともに平和教育を考える（グループトーク） 参加者：インド学生18人、本学学生32人 ［国際化・多文化理解の促進に向けた取組、連携］ ・こまつ市民大学での講座開講 「世界の情勢を読む」（全5回） 「防災とﾚｼﾞﾘｴﾝｽ ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞとﾛｰｶﾙな実践」（全5回） 「世界を知る」（全8回） ・「国際政治」の授業を一般開放（1/31） 『台湾をめぐる安全保障：これからの日台関係を見据えて』 講師：尾形誠氏（元小松基地司令） ・「英会話カフェ」の共催（1/15、1/29、2/5、2/19） 小松市国際交流員やALTらと、グループに分かれてフリートーク 市内高校生や社会人、本学学生などが参加（延べ55人）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				［その他］ ・お旅まつり　通訳ボランティアの協力（5/11） 　学生4名がお旅まつりの通訳ボランティア業務に参加 ・JAPANTENT　学生ボランティアの参加（8/23） 　学生2名が小松市内をめぐるバスツアーに案内役として参加 ・小松市国際交流協会主催「日本語スピーチコンテスト」（1/12） 　本学教員が審査員として参加、留学生3人が出場 ・小松市教育委員会「English Excellence Award 2019」（12/12） 　本学教員が審査委員長として協力 ・小松市星雲ライオンズクラブ「第19回星雲グローバルスクール English Recitation Contest 2020」（2/2） 　本学教員が審査委員（代表）として協力	

Ⅲ　地域貢献に関する目標

1　地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進

中期目標	教育研究成果及び大学がもつ知的資源の社会への還元を果たし、もってまちの活力と未来を創生するため、地域の企業、医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築し、ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携活動を推進する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進					
① 地域の企業、医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築する。 ② ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携を推進する。	Ⅲ-1-1	自治体や地域の各種団体等からの要請に応じて、各種審議会や、委員会の委員やアドバイザーとして積極的に参画し、各委員の専門性を社会へ発信する。	地域連携推進センター	小松市等が設置する各種委員会等の委員として専門的知識を有する教員を派遣した。 39件（小松市：13件　その他:26件） ［派遣した委員会］ ・小松市国民健康保険運営協議会委員：看護　北岡教授 ・小松市地域ケア推進会議委員：看護　小泉教授 ・小松市くらし安心ネットワーク協議会ＤＶ対策部会　看護　坂本教授 ・小松市ものづくり等審議会：国際　盛田教授 ・小松市制８０周年事業実行委員会：国際　中子准教授 ・福井労働局　粉じん対策指導委員：生産　川端教授 ・北陸地域電波関係研究者ネットワーク構成員：生産　梶原准教授 など	4
	Ⅲ-1-2	**【Ⅱ-1-29】再掲** 協力企業・機関・施設・団体等を幅広く募り、教育・研究・社会連携・大学運営にかかる、多様な連携協力のための体制を拡大する。	地域連携推進センター	シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催や、研究関連イベントへの出展、産学官連携コーディネーターによる北陸３県を中心とした企業訪問により、大学と企業や各種団体との関係構築を推進している。 ［企業等との連携協力体制］ ・協力企業等　319件　※H30年度：279件 （内訳　石川県：182、福井県：57、富山県：59、その他：19、海外：2）	3

中期計画		番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
		Ⅲ-1-3	大学紹介や教育研究成果を地域に還元するため、各種媒体を通じて情報発信を積極的に行う。	広報室	各種媒体を活用して以下のとおり情報発信を行った。 [各種媒体を活用した研究者紹介] ①大学広報紙（更新版）の発行 2019年6月　10,000部発行 平成31年度着任教員追加・更新 ②ホームページでの発信 教員・研究者紹介の平成31年度着任教員追加・更新 ③広報誌Tachyonの発行 2019年7月　第3号　3,000部発行 教員紹介：臨床工学科　李教授 2020年2月　第4号　3,000部発行 教員紹介：生産システム科学科　川端教授 ④広報こまつの活用（市内全戸配布） 教員紹介「開け！研究室のとびら」 7月号　生産システム科学科　香川教授、朴助教 10月号　保健医療学部　徳田教授、野川准教授 1月号　国際文化交流学部　木場准教授、小原准教授 ⑤ラジオ広報番組での発信（放送日・出演者） 8/3・10　看護　徳田教授、学生２人 8/17・24・31　生産　朴助教、学生１人 9/7・14　国際　長辻助教 9/21・28　臨床　真田学科長 10/5・12　青松祭実行委員（学生） 10/19・26　国際　杓谷教授 11/2・8　国際　木村准教授、学生2人（カンボジア報告） 11/16・23・30　生産　梶原准教授、学生2人（シリコンバレー報告） 12/6・13　生産　疋津准教授、学生1人 12/20・27　国際　バンス教授 1/4・11　臨床　坂元講師、学生2人 1/18・25　看護　相上助教、学生2人 ⑥シリコンバレー研修の発信 MROで特集放送（9/18・19　2日間） [その他] ①学長講演 5/30　小松ロータリークラブ卓話「公立小松大学2年目を迎えて」 10/23　北陸税理士会小松支部「糖尿病の話」 10/24　第一地区老人クラブ連合会「健康講座―糖尿病の話」 ②学生の動画出演協力 ・新幹線開業PR動画（看護2人、国際1人） ・小松市市制80周年記念CM動画（看護3人、国際6人）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-1-4	**【Ⅱ-2-7】再掲** 本学の研究シーズを外部に継続的に発信するとともに、他大学、企業や各種団体、自治体等との各種プロジェクト活動を推進する。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	学科別に「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を開催し、本学の研究力の発信を行うとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。また、産学官連携イベントへの出展も積極的に行い、研究シーズの発信や地域連連携推進センターの活動をPRした。 また、小松市との連携協力が進み、大学コンソーシアムいしかわの「地域課題研究ゼミナール支援事業」で本学申請の2件が採択されたほか、小松市・能美市で開催された複合型文化イベント「KUTANism」で本学学生のボランティアガイドツアーが実施された。保健医療の分野では、「世界糖尿病デー」で小松市医師会糖尿病連携推進協議会との共催により、中央キャンパスにおいて主に子供たちを対象としたイベントを実施した。いずれも、学生を交えた活動により、プロジェクトの活性化に大いに貢献した。 ［シーズ・ニーズマッチングシンポジウム］ ※詳細は、Ⅱ-2-4参照 ［産学官連携イベントへの出展（本学の研究シーズの発信、地域連携推進センターの活動PR等）］ ・ＭＥＸ金沢　（5/17～19　石川県産業展示館） ・北陸技術交流テクノフェア　（10/24・25　福井県産業会館） ・Matching HUB Kanazawa 2019（11/12 ANAクラウンプラザホテル金沢） ［自治体、地域の団体等との連携］ ①大学コンソーシアム石川　地域課題研究ゼミナール支援事業（2件採択） ・地域連携推進センター長　真田教授・稚松はつらつ協議会「稚松が一番」 「地域ポータルサービス（アプリ）を活用した地域情報の効果的な発信によるコミュニティ活動の活性化」 ・国際文化交流学科中子准教授・月津校下地域活性化協議会 「地域活性化協議会が主体となった乗合ワゴンの運営体制の構築」 ②「KUTANism」（9/16～10/14　小松市・能美市共同開催）への協力 ・国際文化交流学科　中子准教授が実行委員として参画 ・国際文化交流学科の2年生5人が、九谷陶芸村で開催された「九谷さんぽ」のボランティアガイドとして活動（全6回） ③「世界糖尿病デー」（11/14　小松市医師会糖尿病連携推進協議会共催） ・学長特別講演「もしも、おじいちゃんやおばあちゃんが糖尿病になったとき、きみにできること」 ・中央キャンパス内クイズラリー、ライトアップ点灯式 参加者：子供17人、学生・教職員・関係者約20人	4

２　社会人教育（再掲）

中期目標	身近な学びの拠点として、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施するとともに、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図り、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　社会人教育（再掲）					
① 社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施する。	Ⅲ-2-1	**【Ⅱ-1-36】再掲** 社会人教育プログラムを実施する。	地域連携推進センター	ものづくり企業の従業員を対象に、ものづくりに必要な知識を一貫して体系的に学ぶことができる実践的な教育プログラムをとして、「ものづくり人材スキルアッププログラム」を開講した。実施にあたってはものづくり企業の実務家を講師とし、受講生が企業の実務に活かせる内容を学べるプログラムとした。 ［コース］ ①総合コース（Ａコース、Ｂコース）、②Ａコース（生産管理技術）、 ③Ｂコース（工場経営管理）、④選択Ｂコース ［参加者］ ・前期（5/17～9/2）　外部講師　11人 総合コース3人、Ａコース3人、Ｂコース2人、選択Ｂコース5人 ・後期（10/17～2/6）　外部講師　11人 総合コース3人、Ａコース2人、選択Ｂコース2人受講	4
	Ⅲ-2-2	**【Ⅱ-1-37】再掲** 市民公開講座を実施する。	地域連携推進センター	市内企業等からのニーズを踏まえ、品質管理検定受験講座を実施した。 ［品質管理検定受験講座］ 受講者　前期　3級：50人　2級：10人 後期　3級：43人　2級：－	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-2-3	**【Ⅱ-1-38】再掲** 小松市、小松商工会議所、まちづくり市民財団、社会福祉協議会と協同で、こまつ市民大学の運営に携わる。	地域連携推進センター	小松市、商工会議所、まちづくり市民財団、社会福祉協議会との間で、「こまつ市民大学の開設及び運営に関する協定書」を締結。地域連携推進センター長が運営委員として参画し、本学教員が「こまつ市民大学」の講師を務める講座を多数開講した。ものづくり、健康、語学、国際情勢など、本学の特徴を生かした多彩な内容となり、また、昨年度に引き続き講義の多くは、本学中央キャンパスを会場とした。 ［実績］ ①第1期追加講座（4月～7月） 講座数：4（いずれも、本学教員が講師を担当） 講師数（本学教員）：延べ8人 ②第2期講座（8月～令和2年7月） 講座数：32（内、本学教員が講師を担当するのは13） 講師数（本学教員）：延べ25人	4
② 附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図る。	Ⅲ-2-4	**【Ⅱ-1-39】再掲** 教育研究に支障のない範囲で、地域の利用者に対し、附属図書館や英語カフェ等を開放する。	附属図書館	自習室は、特に近隣の高校生の利用が伸びており、利用実績は2,412人となった。 ［附属図書館学外利用者数］ 令和元年度　2,488人　※H30年度　1,473人 （内、自習室利用　2,412人） 英語カフェは、小松市国際交流協会との共催イベント「英会話カフェ」や、小松市立高校生と本学への短期留学生の交流会の会場としての利用や、小松青年会議所とテーマ別基礎ゼミのワークショップを開催するなど、さまざまな市民利用があった。	4
	Ⅲ-2-5	**【Ⅱ-1-40】再掲** 大学施設の効率的・効果的な運用・管理を図り、本学の運営に支障のない範囲で、大学施設の市民利用を推進する。	財務課	年間通じて、中央キャンパスは、附属図書館及び自習室（高校生・大学生に限る）を、粟津キャンパス及び末広キャンパスでは、学生食堂および附属図書館を一般に開放している。また、その他の教室等においては、教育研究活動に支障のない範囲で、希望者からの申請に基づく有償での一般利用を行っている。 ［施設利用］338件（平成30年度：395件） ・中央キャンパス　50件（うち26件はこまつ市民大学） ・粟津キャンパス　287件（うち185件は運動場利用） ・末広キャンパス　1件	4

３　学びをまちの活力に

中期目標	多くの企業、施設、店舗、町内会等の理解のもとに、サークル活動やボランティア活動を含む学生生活を広くまち全体で展開し、若者のエネルギーがみなぎる「まちなかキャンパス」づくりを推進する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　学びをまちの活力に					
若者のエネルギーがみなぎる「まちなかキャンパス」づくりを推進するため、企業、施設、店舗、町内会等のご理解のもと、サークル活動やボランティア活動等を広く展開する。	Ⅲ-3-1	学生の自主的活動(大学祭、サークル、ボランティア等)に関わる必要な指導・支援を実施する。	学生課	学生らによる自主的・自律的な活動を原則としつつ、教員が顧問としてサークル活動を監督するとともに、事務局学生課が中心となって各種の学生活動を支援した。また、地域とのつながりの中で学び、大学として地域に貢献していくため、地域で行事等に積極的に参加した。参加は学生の希望に基づいて行うことを基本とし、学生の自主性や積極性を重視した。 ［大学祭］（10/19-20） 第２回大学祭「青松祭」を開催。2年生を中心に企画、広報、イベントの3つの部会を編成し準備に従事した。今年度は1学年増え、実行委員及び応援スタッフも倍増したことによって、特に広告協賛など企業や地域団体へ出向く業務を円滑に行うことが出来た。また、大学祭のPRのため、小松市や各団体の主催するイベントにスタッフとして参加した（ラグビーワールドカップパブリックビューイング【9/20、10/13】、スマイル木場潟2019【9/22】）。 模擬店とステージイベントについては小松駅高架橋下を使用し、雨天にも関わらず、多くの方が来場した。また、今年度も芸能人によるトークショーをうらら大ホールで会場した。（トークショー来場者：約400人） ［サークル活動］ 学生の課外活動の推進及び安全な活動環境をつくるための情報交換を行うことを目的として、6月12日に学生課が中心となってサークル代表者を対象とした会議を開催し、サークル活動中のケガなどに対応する保険や、道具の利用、市内施設の利用方法について説明を行った。そのほかにも、適宜周知・確認すべき事項が発生した際には会議を開催し、学生と密に連絡連絡をとった。（計４回） 学生の課外活動を支援するため、大学施設の使用は無料で行えることとし、また、小松市まちづくり市民財団のご協力のもとに体育施設の料金割引が適用されている。 2019年度サークル総数 35団体（体育系17、文科系18） ※2018年度：29団体	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				［地域行事への参加］ ・お旅まつり（5/11）　曳山の曳手として、学生及び教職員が参加 　参加者：33人（内、学生20人） ・小松市どんどんまつり（10/12-13）※台風のためイベント中止 （予定していたもの） 　1日目：あんどん行列とどんどんこまつ輪踊り参加 　2日目：看護学科教員を中心に健康相談ブース「こまだい保健室」開設 ・小松市公民館フェスタ（7/14）　地域活性化サークル出展 ・小松ガス展（8/30）ダンスサークル出演 ・南加賀ボランティアカーニバル（9/1）ダンスサークル出演 ・木場潟西園地ライトアップ点灯式イベント（10/19）吹奏楽サークル出演 ・小松市福祉ふれあいフェスティバル（10/27）軽音サークル出演 ［各種ボランティア参加］ ・お旅まつり　通訳ボランティアの協力（5/11）参加者：4人 　学生4人がお旅まつりの通訳ボランティア業務に参加 ・なごみ祭り（6/1） 　看護学科学生（19人）が、こまつ看護学校の学生と共に参加 ・クリーンビーチいしかわ（6/9） 　海岸清掃活動に学生及び教職員が参加、参加者：35人（内、学生19人） ・JAPANTENT　バスツアー案内ボランティア（8/23）　参加者：2人 ・石川県障害者ふれあいフェスティバル（9/22）　参加者：2人 ・ラグビーワールドカップパブリックビューイング小松会場（9/20） ・スマイル木場潟2019（9/22）　参加者：10人 ・第38回KOMATSU全日本鉄人レース2019（9/29） 　事前準備からボランティア参加　参加者：2人 ・こまつ水辺クリーンデー（3/15）※新型コロナウイルスの影響で中止 ［その他］ ・小松市手話講座（7/17～10/9　全12回）　参加者：学生5人、教員1人 ・防災士講習（11/9・10）　参加者：学生5人	

Ⅳ　業務運営の改善及び効率化に関する目標

1　組織運営の改善に関する目標

(1)　機動的な管理体制の構築と適切性の確保

中期目標	経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長のリーダーシップのもとに、各種組織・会議の役割と責任を明確にし、速やかで適確な大学運営を行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置　－　(1)　機動的な管理体制の構築と適切性の確保					
① 理事長及び学長を中心とした管理体制を確立し、ガバナンスの強化を図る。	Ⅳ-1-1	経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長の指揮のもと、理事会や審議会及び各種委員会等を適切に運営する。	総務課	理事長及び学長のトップマネジメントのもと、理事会や各種審議会、教授会等の組織体制を構築し、重要事項について審議を行い、適切な法人運営に努めた。 また、組織全体としての指揮命令系統を明確にするとともに、示された方針や決定事項を関係する職員隅々まで周知徹底させるため、月に一度学長、副学長、学部長、学科長、事務局長及び事務局各課長が集まる会議を実施した。 ［重要会議の開催状況］ ・理事会　５回　　・経営審議会　５回 ・教育研究審議会 16回	3
② 各種組織・会議の役割を明確にする。 ③ 各組織・会議は、互いに良好な連携を図りつつ、それぞれのミッションを果たす。	Ⅳ-1-2	自己点検・評価委員会を定期的に開催し、各組織のミッションと進捗状況について情報共有するとともに、組織間の連携を図っていく。	総務課	自己点検・評価委員会及び評価室により、年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、進捗管理様式を定め、法人・大学の組織ごとに作成し、半年に一回、評価室にてヒアリングを実施した。 ［ヒアリングの実施］ 5/10・14　評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （平成30年度年度計画の実績、令和元年度年度計画の予定・方針） 10/31・11/1　評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （令和元年度年度計画の進捗確認） 5/11・12　評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （令和元年度年度計画の実績）	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
④ 業務内容の変化や業務量の変動に柔軟に対応するため、適宜組織の見直しを行う。	Ⅳ-1-3	粟津キャンパス及び末広キャンパスの利用開始にあたり、適切な職員の配置を行うとともに、組織全体として業務の迅速化、正確化及び効率化を図るための取組を推進する。	総務課	職員配置計画を踏まえ、10月１日より粟津・中央・末広の３キャンパスでの事務体制をスタートした。今後も、各課及び各キャンパスの業務量や業務内容に応じた組織、適正な人員配置の見直し・改善を適宜進める。 ［事務局体制（保健管理センター、図書館除く）］ ・粟津　財務課6人、短大3人 ・中央　学生課9人、総務課5人 ・末広　総務課（人事）4人、学生課2人 ※中央との兼務2人を含む ・こまつビジネス創造プラザ　財務課1人	3

(2)　組織力の強化と構成員の資質・能力の向上

中期目標	公立小松大学としてふさわしい組織風土の醸成に努め、教職員全員が法人の目的及び自らの役割を認識した上でそれぞれの専門性を活かし、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能を最大化させる。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置　ー　(2)　組織力の強化と構成員の資質・能力の向上					
① 職員全員が法人のビジョンを共有し、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能強化に取り組む。	Ⅳ-1-4	大学憲章のもとに、職員が法人・大学の理念や発展の方向性について学び、意識を共有する機会を設ける。	総務課	7月23日に新規採用職員11名を対象として研修「公立小松大学について・法人業務全般を知る」を開催した。その研修のプログラムとして、学長より大学憲章の基本理念や目標等について講話を行い、大学の理念について学び、意識の共有を図った。	3
② ＦＤ及びＳＤ活動を実施し、構成員の資質・能力の向上を図る。	Ⅳ-1-5	効果的なＦＤ及びＳＤ活動を実施するため、組織運営上の課題を踏まえた年間計画を策定し、研修を適時適切に実施する。	総務課	年間を通じて研修会を開催し、職員の管理運営や教育・研究についての資質向上に取り組んだ。 ［研修の実績］ ・7/24「学生の理解度を深める授業方法について」 講師：金沢大学教授　堀井祐介　74人参加 ・9/25「科学研究費助成事業　研究計画調書の作成にあたって」 講師：金沢大学監事　村本健一郎　60人参加 ・9/24、9/25「救命講習会」講師：小松市消防本部消防員 ・12/19「学生の実践力アップを目指す3つの教育ストラテジー」 講師：京都大学助教　内藤知佐子　58人参加	3

２　学びをまちの活力に

中期目標	教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能し得るよう、教育研究組織について適宜見直しを行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　学びをまちの活力に					
教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能するために、学部学科や入学者定員の改変、大学院の設置等の教育研究組織の見直しを行う。	Ⅳ-2-1	平成31年度入試の結果を踏まえ、区分毎の入学者定員を再考する。	教育企画委員会、学生課	平成31年度入試結果を踏まえ、事務局により各要項案を作成し、入試部会にて各学科の内容等を確認し、作成から公表、配布を実施した。 【要項配付の流れ】 ・4/1　2019年度入試における入学者選抜方法の変更に関する予告の公表（生産システム科学部） ・6/21　入学者選抜要項　完成 ・8/29　学生募集要項（推薦入試、社会人入試）完成 ・9/25　入試部会にて学生募集要項（一般入試）案の確認 ・10/15　学生募集要項（一般入試）をHP上に掲載	3
	Ⅳ-2-2	**【Ⅱ-1-35】再掲** 公立小松大学設置の基本理念に合致した大学院の設置に向け、具体的な検討を行う。	全学	教育研究審議会と経営審議会で大学院サスティナブルソルーション研究科（仮称）の設置構想が承認され、これを受けて、「修士・博士課程設置検討ワーキンググループ」を組織し、教科目等について検討を開始した。 また、教科目案に基づき、学士課程の学年進行とともに定年を迎える教員の後任となる学部大学院兼任教員の募集を開始した。（募集期間：3月～2020年5月）	4

３　人事の適正化に関する目標

(1)　人事管理の適切な運用

中期目標	適材適所の人材配置を行うとともに、教職員の資質向上のための研修制度を整備する。また、教職員のエフォート及び実績を適切に評価する制度を構築することによって、教職員のモチベーションを高め、教育研究活動及び業務の活性化を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　人事の適正化に関する目標を達成するための措置　－　(1)　人事管理の適切な運用					
①　ＦＤ及びＳＤ活動を実施し、構成員の資質・能力の向上を図る。（再掲）	Ⅳ-3-1	**【Ⅳ-1-5】再掲** 効果的なＦＤ及びＳＤ活動を実施するため、組織運営上の課題を踏まえた年間計画を策定し、研修を適時適切に実施する。	総務課	年間を通じて研修会を開催し、職員の管理運営や教育・研究についての資質向上に取り組んだ。 ［研修の実績］ ・7/24「学生の理解度を深める授業方法について」 講師：金沢大学教授　堀井祐介　74人参加 ・9/25「科学研究費助成事業　研究計画調書の作成にあたって」 講師：金沢大学監事　村本健一郎　60人参加 ・9/24、9/25「救命講習会」講師：小松市消防本部消防員 ・12/19「学生の実践力アップを目指す3つの教育ストラテジー」 講師：京都大学助教　内藤知佐子　58人参加	3
②　職員のエフォート及び実績が処遇に適切に反映される評価制度を構築、実施する。	Ⅳ-3-2	職員評価制度を確立し、実効性のある運用を進める。	総務課	勤務成績評価実施要項に基づき、事務職員の成績評価を実施した（５月、11月）。 ［職員評価制度］ ・職能評価（12項目）と業績評価（２項目）の計14項目で評価 ・評価は５段階で行う	3

(2)　教職員の採用

中期目標	教職員の採用は、中長期的な視点に立って行うものとし、原則として公募により行う等、公平性、透明性及び客観性が確保される制度を構築する。また、採用にあたっては、次代を担う教職員を育成していくため、バランスのとれた教職員構成となるよう取り組む。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3　人事の適正化に関する目標を達成するための措置　－　(2)　教職員の採用					
質の高い教育研究・管理運営を実施して行くため、優秀な職員を採用、育成する制度を構築し、運用する。	Ⅳ-3-3	人員配置計画に沿った適正な職員採用を行うとともに、職員の能力向上を図るための研修を実施する。	総務課	下記のとおり職員の採用及び研修を実施した。 ［採用］ ・職員採用試験を実施 公募期間：5/27～6/7 公募総数：A 事務職 13人 B 事務職（大学事務経験者）　4人 C 司書 11人 試験日：6/23・7/26 （その際に論文及び面接の評定票を使用し、評価を行った） 採用内定：A 1人、B 2人、C 1人 ※上記とは別に、現こまつ看護学校職員4人を採用内定。 ・3/4～　大学院担当も含めた教員の公募を開始 （JREC-INの求人公募情報サイトを活用　全18件　※応募締切5/7） ［研修］ ・4/4　初任者研修　２人参加 「社会人とは・ビジネスマナーについて」 ・7/23　新規採用職員研修　11人参加 「公立小松大学について・法人業務全般を知る」 ・7/17-19　公立大学協会主催「公立大学職員セミナー」1人派遣 ・12/14　公立大学職員SDフォーラム主催「職員基礎知識研修会」1人派遣	3

４　大学運営の効率化・合理化等に関する目標

中期目標	財源及び人的資源を効率的かつ合理的に運用できる組織体制を整備するとともに、適宜、機能強化に向けた取り組みや見直しを行う。また、事務処理の最適化、外部委託の活用、情報化の推進等により、業務の効率化・合理化を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
４　大学運営の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置					
① 資源を効率的かつ合理的に運用できる体制を整備する。 ② 事務処理の最適化、外部委託の活用、情報化の推進等により、業務の効率化、合理化を図る。	Ⅳ-4-1	年間の予算や業務量、業務内容の状況について把握評価しつつ、適切な予算執行のための体制づくりを進めるとともに、複数キャンパス運営下での法人業務及び大学運営業務の最適化を図る。	総務課、財務課	適切な人員配置を行い大学運営の最適化を図るため、評価室ヒアリングにより業務量や進捗状況を把握しつつ、職員配置計画を踏まえ、10月１日より粟津・中央・末広の３キャンパスでの事務体制をスタートした。 詳細については【Ⅳ-1-3】参照	3
	Ⅳ-4-2	**【Ⅳ-1-3】再掲** 粟津キャンパス及び末広キャンパスの利用開始にあたり、適切な職員の配置を行うとともに、組織全体として業務の迅速化、正確化及び効率化を図るための取組を推進する。	総務課	職員配置計画を踏まえ、10月１日より粟津・中央・末広の３キャンパスでの事務体制をスタートした。今後も、各課及び各キャンパスの業務量や業務内容に応じた組織、適正な人員配置の見直し・改善を適宜進める。 ［事務局体制（保健管理センター、図書館除く）］ ・粟津　財務課6人、短大3人 ・中央　学生課9人、総務課5人 ・末広　総務課（人事）4人、学生課2人 ※中央との兼務2人を含む ・こまつビジネス創造プラザ　財務課1人	3

Ⅴ　財務内容の改善に関する目標

1　自己収入の増加に関する目標

(1)　学生納付金

中期目標	法人運営における基礎的な収入である学生納付金については、入学定員の確保や社会情勢、他大学の水準及び法人収支の状況を勘案して、適切な料金設定と安定した収入確保に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　自己収入の増加に関する目標を達成するための措置　－　(1)　学生納付金					
効果的な学生募集活動の展開による入学志願者の確保及び入学定員の充足に努め、安定した学生納付金の確保を図る。	Ⅴ-1-1	**【Ⅱ-1-13】再掲** 南加賀地域、石川県、北陸地方のみならず全国も視野に入れた、大学説明会やオープンキャンパスを実施し、高等学校への訪問の実施等の学生募集活動を展開する。	教育企画委員会（入試部会）	高校教諭対象大学説明会やオープンキャンパスの開催、教員や事務職員による高校訪問のほか、北陸三県以外の進学相談会への参加など、様々な取組を実施した。 ［高校教諭対象大学説明会］ 金沢、小松、福井、富山の４会場で大学説明会を実施し、北陸３県の高校から延べ77校89人の教員が参加。 6/24　小松会場（参加　13校16人） 6/25　富山会場（参加　18校18人） 6/27　福井会場（参加　16校22人） 6/28　金沢会場（参加　31校34人） ［オープンキャンパス］ ７/13にオープンキャンパスを実施し、会場配置を変更し定員を設けない、申込フォームを設置、情報発信の拡大など行った結果、昨年度を大きく上回る809人の参加があった。 オープンキャンパス2019（参加者809人）※H30年度487人 ［高校訪問］ 6月及び9月に、北陸3県を中心として、教員や事務職員による高校訪問を実施し、入学者選抜要項や募集要項を説明した。また、学科ごとに学生の出身高校への訪問を実施し、学生の近況報告等を行った。さらに、教員が高校を訪れる形での模擬授業や学科説明も計36高校で実施した。 高校訪問　6月　北陸三県91校 9月　北陸三県67校 愛知県3校／岐阜県18校／新潟県2校／長野県5校 ［進学相談会］ 国公立志向の高い東海地方の進学相談会にも積極的に参加した。 進学相談会16回（北陸三県10回／愛知県3回／長野県1回／岐阜県2回） ［大学見学会］ 北陸3県の5校の高校生やその保護者を本学中央キャンパスに迎え、大学の説明や模擬講義を行った。	4

(2)　外部資金等の獲得

中期目標	学生納付金及び運営費交付金に加え、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得や、産学官連携、地域連携による共同研究費、受託研究費の確保に努める。また、基金・寄附金制度の設立等財源確保に向けて取り組む。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　自己収入の増加に関する目標を達成するための措置　－　(2)　外部資金等の獲得					
① 科学研究費補助金及び各種補助事業等による研究助成に関する情報収集・申請・受入等の研究支援体制を充実させ、外部研究資金の獲得増加を図る。 ② 産学官連携、地域連携を推進し、共同研究費、受託研究費の充実を図るほか、寄附金等の獲得に努める。	V-1-2	産官学連携コーディネーターの活用等により、外部資金獲得に努める。	財務課	産官学連携コーディネーター１名を配置し、北陸３県の企業等を中心として、本学で行っている研究分野やシーズの紹介や協力企業等への協力依頼を実施。また、福井テクノフェアなどのイベント出展においても、企業等と研究シーズのマッチングを図っている。 ［協力企業等の依頼（新規）］ 計　63件 ［協力企業等との連携協力体制］ 計　319件 ［共同研究］ ７件（内1件が、コーディネーターによるマッチングによるもの） ※詳細は、Ⅱ-2-6参照	3
	V-1-3	公立小松大学基金の受入れを促進するため、広報媒体を充実する。	財務課	パンフレット「公立小松大学基金への寄附のご案内」を発行し、入学式において保護者、来賓等に配布した。また、９月より直接大学ＨＰから寄付申込ができる仕組みを構築した。 【運営委員会】 ・7/1　第１回公立小松大学基金運営委員会開催 【パンフレットの発行】 「公立小松大学基金への寄附のご案内」 ・4月作成　1,000部 ・10月作成　500部 入学式　保護者、来賓等に配布 保護者説明会　保護者に配布	4

２　経費の抑制・効率化に関する目標

中期目標	安定的な大学運営を行うため、収支計画、資金計画、人員配置計画、施設・設備計画等を策定することにより、法人全体の収支構造を中長期的に把握するとともに、業務の効率化、契約方法の合理化、無駄の防止を図る業務改善、教職員のコスト意識の徹底等により経費の縮減に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　経費の抑制・効率化に関する目標を達成するための措置					
① 教育研究・地域貢献の水準の維持・向上と経費抑制に配慮した中長期の展望にもとづき、収支計画、人員配置計画、施設・設備計画等を策定し、実施する。	Ⅴ-2-1	キャンパス整備計画に基づき、粟津キャンパス及び末広キャンパスの整備を適切に実施する。	財務課	キャンパス整備計画に基づき、粟津キャンパス及び末広キャンパスの整備を以下のとおり実施した。 ［施設整備］ ・粟津キャンパス 8- 9月　学生ホール改修工事 10- 3月　2期工事 研究室、実習室、トイレ改修 ＥＶ設置 3月　緑化フェンス設置工事 ・末広キャンパス 4- 9月　Ａ・Ｂ棟改修工事 Ｃ棟・渡り廊下増築工事 4-11月　外構・付帯工事	5
	Ⅴ-2-2	**【Ⅳ-1-3】再掲** 学生の粟津キャンパス及び末広キャンパスの利用開始にあたり、適切な職員の配置を行うとともに、組織全体として業務の迅速化、正確化及び効率化を図るための取組を推進する。	総務課	職員配置計画を踏まえ、10月１日より粟津・中央・末広の３キャンパスでの事務体制をスタートした。今後も、各課及び各キャンパスの業務量や業務内容に応じた組織、適正な人員配置の見直し・改善を適宜進める。 ［事務局体制（保健管理センター、図書館除く）］ ・粟津　財務課6人、短大3人 ・中央　学生課9人、総務課5人 ・末広　総務課（人事）4人、学生課2人 ※中央との兼務2人を含む ・こまつビジネス創造プラザ　財務課1人	3

	② 職員のコスト意識を高め、契約方法の合理化、業務改善、経費縮減に取り組む。	V-2-3	研修等により職員のコスト意識を高め、経費の縮減に取り組む。	財務課、総務課	４月実施の職員向け財務会計システム説明会の際に、コスト意識向上のための説明を行い、全職員の意識向上を図った。また、財務に関する知識や技術の向上を目的として、監査法人による公立大学法人会計の勉強会の実施や、公立大学協会主催会計基礎セミナーへの出席、財務諸表作成の演習を実施した。財務課職員の能力向上に努めたことは、他の職員に対する契約方法の改善等についてのアドバイスや指示などにつながっている。 また、事務組織全体の取組として、空調や照明の集中管理やタイマー設定等による電気代を意識した管理、大量に使用する消耗品の発注単位の見直しなどが行われた。これら細かく業務改善を積み重ねることで経費や時間の縮減を図るとともに、取組内容をノウハウとして蓄積することで、他の類似する業務へ水平展開も図っている。	3

３　資産管理の改善に関する目標

中期目標	大学施設や知的財産等、法人が保有する資産の適正な管理を図るとともに、資産の有効な活用に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　資産管理の改善に関する目標を達成するための措置					
① 資産の状況を定期的に把握・分析し、適正に管理する。	V-3-1	資産の活用状況を踏まえ、適正に管理する。	財務課	引き続き、財務会計システムにより、法人の有する資産を一元管理するとともに、該当する物品対しては法人の財産であることを示すためのシールを添付している。また、定期的に該当物品の所在や管理状況を把握し、訂正な資産管理に努めている。 インターネットバンキングにより常時預金残高を把握し、預金残高照合表及び資金計画表を作成し管理している。また、施設利用予約サイトを活用し、資産の利用状況を管理している。	3
② 大学の施設設備の適切かつ計画的な保守管理を行う。	V-3-2	大学の施設設備を定期的に点検し、現状を把握する。	財務課	粟津・末広キャンパスにおいて各種点検を実施し、現状の把握を行っている。また、中央キャンパスでは、各種の法定点検を建物の管理会社が実施しているほか、避難経路の点検を月に１度事務職員が実施している。 ［点検の内容］ ・電気設備保安管理業務 ・合併浄化槽保守点検業務 ・学生寮エレベーター保守点検業務 ・消防用設備保守点検業務 ・受水槽水質検査	3
③ 大学運営に支障が生じない範囲内で施設の一般利用を促進し、適切な運用を図る。	V-3-3	大学施設の市民利用を図る。	財務課	年間通じて、中央キャンパスは、附属図書館及び自習室（高校生・大学生に限る）を、粟津キャンパス及び末広キャンパスでは、学生食堂および附属図書館を一般に開放している。また、その他の教室等においては、教育研究活動に支障のない範囲で、希望者からの申請に基づく有償での一般利用を行っている。 ［施設利用］338件（平成30年度：395件） ・中央キャンパス　50件（うち26件はこまつ市民大学） ・粟津キャンパス　287件（うち185件は運動場利用） ・末広キャンパス　1件	4

Ⅵ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1　評価の充実に関する目標

中期目標	大学の自己点検・評価体制を整備し、自己点検・評価を定期的に実施するほか、小松市公立大学法人評価委員会が行う法人評価の結果と併せ、大学運営を継続的に見直す。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　評価の充実に関する目標を達成するための措置					
① 教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置し、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施する。	Ⅵ-1-1	平成30年度年度計画における業務実績について自己点検・評価を行い、その結果を法人運営の改善に活用する。	総務課、評価室	自己点検・評価委員会及び評価室により、年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、進捗管理様式を定め、法人・大学の組織ごとに作成し、半年に一回、評価室にてヒアリングを実施した。ヒアリングにおいては、平成30年度業務実績評価における今後の課題について十分に配慮した上で業務を行っているかについても確認した。 評価の実施にあたっては、法人の審議会や各種委員会において説明を行い、円滑な実施に努めた。 ［評価の流れ］ 4月　各組織ごとに実績取りまとめ 5/10・14　評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （平成30年度年度計画の実績、令和元年度年度計画の予定・方針） 6/5　第1回自己点検・評価委員会 6/12　教育研究審議会で業務実績報告書を承認 6/27　経営審議会・理事会で業務実績報告書を承認 6月末　業務実績報告書を小松市へ提出 8/15　法人評価委員会から業務実績の評価結果を受理 8/29　業務実績報告書、評価書をHPに掲載 10/31・11/1　評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （令和元年度年度計画の進捗確認） 5/11・12　評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （令和元年度年度計画の実績）	4

	② 小松市公立大学法人評価委員会による評価を受け、課題を把握し、解決に向けた取り組みを進める。	Ⅵ-1-2	小松市公立大学法人評価委員会に法人の運営状況について適宜報告を行うとともに、評価委員会の指摘事項を全学で共有し、課題解決に向けた取り組みを進める。	総務課、評価室	業務実績報告書を作成し、法人評価委員会に提出した。法人評価委員会では評価方法等を審議の上業務実績評価書を作成し、結果を公表した。これを受け各組織において業務の改善に努めた。 ［評価の流れ］ 5/29　評価方法等を審議 7/22　業務実績の評価、評価書案の検討 8/15　業務実績評価書を通知 8/29　業務実績報告書、評価委員会による評価書をHPに掲載 評価の結果を、9/11教育研究審議会、9/18経営審議会・理事会、その他各組織の定例会議で報告	3

２　情報公開と情報発信の推進に関する目標

(1)　積極的な情報提供の推進

中期目標	公共性を有する法人として、法人経営・大学運営の透明性を確保するため、教育研究活動や業務運営等に関する積極的な情報提供を行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　情報公開と情報発信の推進に関する目標を達成するための措置　－　(1)　積極的な情報提供の推進					
公立大学法人として法人情報の適切な管理に努めるとともに、市民に対する大学経営の透明性を図るため、大学の基本情報や経営情報、自己点検・評価、外部評価等についてホームページ等により積極的に情報を公開する。	Ⅵ-2-1	法令上公表が義務付けられている事項はもとより、法人運営の状況についてホームページ等を通じて情報を公開する。	総務課、広報室	法令上公表が義務づけられている事項について、適宜最新の情報に更新するとともに、引き続きＨＰでの公開を実施した。また、理事会、経営審議会及び理事会の議事概要についても、引き続き公開を実施した。 ［ＨＰに法定や情報公開の点から掲載している情報］ ・大学運営に関する情報：各種会議の規則、名簿、議事概要 ・法人情報：定款、役員名簿、業務方法書等 ・計画・目標：中期目標、中期計画、年度計画 ・外部評価：業務実績報告書、業務実績の評価 ・財務情報：財務諸表、事業報告書、決算報告書、監査報告、決算概要 ・教育情報：学校教育法施行規則に定められている事項 ・その他：研究倫理規程　等	3

(2)　効果的な広報活動の推進

中期目標	大学が行う活動について広く社会に示すとともに、地域の理解を得ていくため、大学の広報や情報発信を組織的に行うための体制を構築し、特色ある教育研究活動や地域連携等の活動に関する広報を行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2　情報公開と情報発信の推進に関する目標を達成するための措置　－　(2)　効果的な広報活動の推進					
学生募集や産学官連携、地域連携活動等の推進につなげていくため、大学の広報や情報発信を組織的に行う体制を構築し、ホームページ等の様々な広報媒体を活用して積極的な情報提供を行う。	VI-2-2	ホームページや大学広報紙、プレスリリースなどを通じて、本学の優れた教育、研究、地域連携及び国際交流等の取組に係る情報を幅広く発信する。	広報室	広報マニュアルを踏まえ、広報室が中心となって、広報活動を展開した。 広報に関する主な取組は次のとおり。 ［広報室の活動］ ・定例会議の開催（年10回） ・6/17　広報マニュアルの改訂・周知 ・6/18　PR画像の使用ルールについて学内周知（画像を共有化） ［大学案内2019の発行］ ・2019年6月発行、全40ページ、10,000部 ・以下のページを更新。また、写真についても、昨年度末に 本学学生・教員で撮影したPR用画像に差し替え。 Ｐ８　　副学長紹介 P33　平成31年度　入試結果 P34・35　教員の研究内容一覧 P36　協力企業・機関・施設・団体等一覧 P37　国際交流（新規追加） ［広報誌Tachyonの発行］ ・第3号　7月発行　全8ページ　3,000部 入学宣誓式特集、大学行事、キャンパス施設紹介、 教員紹介（臨床　李准教授）など ・第4号　2月発行　全8ページ　3,000部 末広キャンパスオープン、大学TOPICS、教員紹介（川端 教授）、 産学合同シリコンバレー研修、第2回青松祭 保護者、協力企業、北陸3県高校、市内公共施設、 オープンキャンパス参加者等に配付 ［ウェブサイトの運用］ ・随時、サイト情報更新、NEWSページの作成 NEWS記事掲載 4月～9月：35（入試5、ニュース25、イベント5） 10月～3月：63（入試20、ニュース37、イベント6） ・3月末時点　Webページ数：110ページ ※４月～９月　PV（ページビュー）411,196 ユーザー（訪問者数）52,499 10月～３月　PV（ページビュー）638,555 ユーザー（訪問者数）72,327	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				［テレビ・ラジオの活用］ ①ラジオこまつの活用 ・８月～毎週土曜日9：30～9：45 広報番組「飛び立て!公立小松大学」 学部学科紹介、研究紹介、学生の生の声など ※放送済のものは、本学ウェブサイトで視聴可能 8/3・10　　看護　徳田教授、学生2人 8/17・24・31　　生産　朴助教、学生1人 9/7・14　国際　長辻助教 9/21・28　臨床　真田学科長 10/5・12　青松祭実行委員会 10/19・26　国際　杓谷教授 11/2・8　国際　木村准教授、学生2人（カンボジア報告） 11/16・23・30　生産　梶原准教授、学生2人 （シリコンバレー報告） 12/6・13　生産　疋津准教授、学生1人 12/20・27　国際　バンス教授 1/4・11　臨床　坂元講師、学生2人 1/18・25　看護　相上助教、学生2人 ・8月～3月　ラジオＣＭ放送（60秒ver、全365回） ②その他ラジオの活用 1/22～2/5　MROラジオ、エフエムいしかわで20秒スポットCMを各70本放送 ※MROラジオは、1/16に約5分のラジオ生出演（学生課出口）とレオスタぷらすでの大学紹介放送のパブリシティが追加 ［その他媒体の活用］ ・イオンシネマ（新小松）でのメッセージ広告放送 （静止画10秒　全映画の上映前に放送） 夏（8/16～8/29　14日間） 正月（1/3～1/9　7日間） ・学生広報サポーターの活動 12月　3名の応募あり（国際2年生3人） 3/27　学生向け研修会開催 （取材、写真撮影について　講師：Favo編集部）	

Ⅶ　その他業務運営に関する目標

1　施設設備の整備及び活用に関する目標

中期目標	良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の充実整備を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　施設設備の整備及び活用に関する目標を達成するための措置					
① 良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の充実整備を図る。 ② キャンパスのバリアフリー化を進める。	Ⅶ-1-1	**【Ⅴ-2-1】再掲** キャンパス整備計画に基づき、粟津キャンパス及び末広キャンパスの整備を適切に実施する。	財務課	キャンパス整備計画に基づき、粟津キャンパス及び末広キャンパスの整備を以下のとおり実施した。 ［施設整備］ ・粟津キャンパス 8- 9月　学生ホール改修工事 10- 3月　2期工事 研究室、実習室、トイレ改修 ＥＶ設置 3月　緑化フェンス設置工事 ・末広キャンパス 4- 9月　Ａ・Ｂ棟改修工事 Ｃ棟・渡り廊下増築工事 4-11月　外構・付帯工事	5

		Ⅶ-1-2	キャンパスのバリアフリー化を推進するとともに、アメニティの向上のための取組を実施する。	財務課、学生課	「石川県バリアフリー社会の推進に関する条例」に基づき、各キャンパスのバリアフリー化に向けた整備を実施した。また、各キャンパスにおいてアメニティの向上を推進した。 ［バリアフリー化］ ・粟津キャンパス ＥＶ設置 ・末広キャンパス Ｂ棟ＥＶとの接続 ［アメニティー向上］ ・全体 シャトルバスの２台体制 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として３キャンパス全てのトイレにペーパータオルを設置 ・中央キャンパス １Ｆ自動ドアの設置により各階ＥＶ前フロア及び屋上広場を大学占有とする ・粟津キャンパス 学生ホール及び学生用トイレを改修 学生寮の受入開始 街路灯設置（６灯） ・末広キャンパス 学生食堂、売店、学生ラウンジの設置 駐輪場の増設	4

２　安全衛生管理に関する目標

中期目標	学生及び教職員の健康及び安全を確保する体制を構築する。また、災害等による被害の発生に備えてリスク管理を徹底するとともに、災害等が発生した場合に適切かつ迅速に対応できる危機管理体制を整備する。さらに、個人情報を含む情報セキュリティ対策を講じる。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　安全衛生管理に関する目標を達成するための措置					
① 学生及び職員の健康及び安全を確保する体制を構築する。	Ⅶ-2-1	職員を対象に定期健康診断とストレスチェックを実施するとともに、衛生管理体制の充実化を図るなど、職員の安全衛生管理を行う。	保健管理センター、衛生委員会、総務課	安全衛生委員会を定期的に開催し、適宜定期健診やストレスチェックを実施し、職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。 ［主な取組］ ・6/17～6/24　ストレスチェック実施 ・8/19　定期健康診断実施 ・安全衛生委員会 開催(年８回) ・10/24、11/20、11/27、11/28　インフルエンザ予防接種実施 ・ハラスメント対策について 4/17　ハラスメント防止委員会を開催 8/28　ハラスメント相談員向け研修会 講師：看護学科　鋤柄増根 ・各所属長へ、所属職員の勤務状況（長時間労働者等）を集計し、お知らせ（6・9・12月）	4
	Ⅶ-2-2	**【Ⅱ-1-18】再掲** 健康診断の徹底、インフルエンザ予防等の保健管理センターによる健康支援のための取組を推進する。また、学生相談を随時実施し、相談しやすい環境づくりにも取り組む。	保健管理センター	学生定期健康診断を実施し、1・2年生全員が受診した。また、検診事後指導として、血圧と検尿の再検査を保健管理センターで実施し、要精密検査や要治療者には受診をすすめ、校医による事後相談も行った。 インフルエンザ集団予防接種を実施し、学生に対しては全学部のオリエンテーションで接種勧奨を行った結果、286人（57.4%）が接種した。 臨床心理士（公認心理師）による学生相談は、中央キャンパスと粟津キャンパスの2か所で実施し、相談者14人、延べ相談回数は300回となった。 その他、健康への興味関心を高めるため、「ほけかんだより」を発行し、学生及び教職員へメールで配信している（10回発行）。特に、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供は、1月以降4回実施した。 3月末から、学年毎の新学期前のオリエンテーションで感染予防について講話を行ったほか、マスクや消毒液の確保、体調管理に関する注意喚起、海外から帰国した学生への健康チェック表など、感染対策を実施した。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
② 防災・防犯のためのマニュアルを作成し、学生や職員を対象とした啓発や訓練を行う。 ③ 災害等が発生した場合に適切かつ迅速に対応できる危機管理体制を整備する。	Ⅶ-2-3	各種の防災マニュアルの整備を行うとともに、計画的に訓練を実施するなど、危機管理のための取組を推進する。	総務課	人事異動や組織改編に伴い自衛消防マニュアル等の見直しや防災備品等の整備を行った。また、職員を対象とした各種訓練を実施し、災害時等の初動対応について確認を行った。さらに、小松市からの依頼を受け「災害時の一時避難施設としての使用に関する協定書」を締結した。 ［計画・マニュアル等の整備］ ・人事異動に伴い消防計画を修正 ・人事異動に伴い自衛消防マニュアルを改定 ［防災用品等の整備］ ・非常食、非常用備品の設置（中央・末広キャンパス） ・感染症対策キットの設置（３キャンパス） ［訓練］ ・4/18　中央キャンパス自衛消防隊による訓練実施 AZスクエア全体の訓練に合わせ、職員全員の動きを確認 ・10/29　中央キャンパス自衛消防隊による訓練実施 AZスクエア全体の訓練に合わせ、全教職員・学生を対象として全員の動きを確認 （同日、小松駅の防災訓練に看護学科が参加） ［協定の締結］ ・2/21　災害時の一時避難施設としての使用に関する協定書を締結 （小松市、アズスクエア、公立小松大学）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅶ-2-4	危機管理のための組織体制や職員への連絡体制、学生への周知体制を確立し、課題を検証しながら適切に運用する。	総務課	安否確認システム「Safetylink24」の本格運用を開始し、配信訓練等を通し緊急時連絡体制・周知体制を強化した。また、休日夜間の電話自動応答・緊急用電話番号の運用を開始した。 新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受け、危機管理委員会を開催し、本学としての基本方針の策定など感染防止に係る取組を実施した。 ［安否確認システム］ ・4/1～4　オリエンテーションで安否確認システムを学生に周知 ・4/25 安否確認システム配信訓練 全学対象（630人） ⇒回答者数 348人（55.2%） ・1/16 安否確認システム配信訓練 全学対象（631人） ⇒回答者数 456人（72.3%） ［新型コロナウイルス感染症に係る対応について］ ・危機管理委員会開催（3/5、3/25、3/30） ・対策方針の策定（第一報 3/6、第二報 3/26） ・マスク、消毒液の確保	4
④ 個人情報を含む情報セキュリティ対策を講じる。	Ⅶ-2-5	個人情報管理や情報ネットワークのセキュリティ等の要項等の整備を推進し、適切な情報セキュリティ体制の構築を推進する。	総務課	3/11に第1回全学情報システム運用委員会を開催。セキュリティポリシーに係る情報システム基本運用方針・情報システム利用規程・情報格付け基準・情報格付け取扱手順を策定し、本学における基本的な情報セキュリティ体制を構築した。	4

３　法令遵守等に関する目標

(1)　法令遵守及び人権の尊重

中期目標	全ての学生や教職員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。また、人権を尊重し、全ての人がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　法令遵守等に関する目標　－　(1)　法令遵守及び人権の尊重					
① すべての学生や職員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。 ② 人権を尊重し、すべての人がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。 ③ ワークライフバランスに配慮し、誰もが働きやすい職場環境づくりに努める。	Ⅶ-3-1	研修等の啓発活動を行うことにより学生や職員への法令遵守を徹底する。	総務課	7月23日に新規採用職員11名を対象として研修「公立小松大学について・法人業務全般を知る」を開催した。その研修のプログラムとして、総務課長より公立大学法人制度の講話があり、制度の説明を通し地方独立行政法人法やその他法令に則り業務を遂行することの重要性を確認した。	3
	Ⅶ-3-2	各種ハラスメント防止のための取組など、人権問題に関する相談・調査のための取組を推進する。	総務課	ハラスメント防止委員会を開催し、ハラスメントに関する苦情の申出及び相談に対応するため、ハラスメント相談員を選定した。また相談員について周知するため、学生・教職員に向けて学内掲示や一斉メールを送った。さらに、相談員に対しハラスメントに関する研修会を実施した。 ［主な取組］ 4/17　ハラスメント防止委員会を開催 8/28　ハラスメント相談員向け研修会 講師：看護学科　鋤柄増根	4

		Ⅶ-3-3	学生や職員の意見を尊重し、学びやすく働きやすい環境づくりに努める。	総務課、学生課	学内における様々な意見を大学運営に活かしていくため、学生が自由に意見を投函できる「こまつ未来箱」を設置し、意見や要望に対しては定期的に学長から回答を学生に示している。また、教員、事務職員、学生代表により構成される「アメニティ向上委員会」を設置し、学生の生の声を、大学の環境改善に反映するための仕組みを継続している。 職員に対しては、毎月の課長級以上の会議において、各種課題の共有を行い、安全衛生委員会における活動と共に働きやすい環境づくりに努めている。 ［環境改善に向けた取組］ 中央キャンパス ・屋上の花壇を増設 1階に自動ドアを設置。学生・利用者の安全・安心の向上につなげるとともに、専有スペースを拡大 粟津キャンパス ・緑化フェンスを設置 ・エレベーターを設置 ・学生ホール及び学生トイレを改修 末広キャンパス ・キャンパス運用開始に伴い、キャンパス内のセキュリティー、利用時間などをまとめた利用ガイドを後期オリエンテーション時に配布 ［職員の労働環境の改善］ ・ストレスチェックの実施と、事後指導 ・インフルエンザ集団予防接種を市医師会の協力により大学で実施 ・産業医の職場巡回	4

(2)　内部監査体制の確立

中期目標	内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3　法令遵守等に関する目標　－　(2)　内部監査体制の確立					
内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。	Ⅶ-3-4	業務方法書及び内部監査規程に基づき、内部監査を実施する。	総務課	「平成31年度監事監査計画」及び「平成31年度内部監査計画」策定を策定し、それらに基づき監査を実施した。内部監査の実施にあたり、総務課内に「監査班」を組織した。 ［監事監査］ 理事会をはじめとする重要な会議等へ出席し、質問を行ったほか、必要に応じて意見を述べた。また、令和元年６月に業務実績報告書及び財務諸表等による業務監査及び会計監査を実施した。 ［内部監査］ 監事２名と内部監査の実施について協議を行ったうえで、監査を実施した。今年度は、財務課を対象とし、収入支出に関する事項、帳簿及び証拠書類に関する事項について書類監査及び財務課職員からのヒアリングにより実施し、適切に業務が行われていることを確認した。	3

(3)　環境保全の推進

中期目標	内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3　法令遵守等に関する目標　－　(3)　環境保全の推進					
① 大学運営全体を通して環境負荷の低減に努め、省エネルギーに関する取組を推進する。	Ⅶ-3-5	施設設備を点検し、必要に応じて整備更新し、エネルギーの高効率化に努める。	財務課	粟津・末広キャンパスにおいて各種点検を実施し、現状の把握を行っているほか、中央キャンパスでは、各種の法定点検を建物の管理会社が実施している。また、点検結果を踏まえて、整備更新についても随時実施している。 ［点検の内容］ ・電気設備保安管理業務 ・合併浄化槽保守点検業務 ・学生寮エレベーター保守点検業務 ・消防用設備保守点検業務 ［整備更新］ ・3月　電気設備の改修（粟津） ・11、3月　消防設備の改修（粟津）	4
	Ⅶ-3-6	夏季及び冬季の室温を適切に管理する等、省エネルギーに努める。	財務課	空調や照明の集中管理やタイマー設定等による電力量を意識した管理を実施するとともに、冷房や暖房を使用する時期においては、張り紙等により教職員及び学生に省エネ対策を周知した。 粟津・末広キャンパスでは、デマンド監視装置により室温等電気の使用状況を管理しており、粟津キャンパスにおいては電力会社との契約電力量が164kwから125kwとなり、基本料金が50千円/月 削減された。 中央キャンパスでは、管理会社から日々の電力使用状況の報告を定期的に受け、その報告をもとに、建物全体としてのデマンドの削減に努めた。	4
② 廃棄物の適正な分別を徹底し、減量化とリサイクルを推進する。	Ⅶ-3-7	職員と学生に対して廃棄物の分別や減量化等の周知を行うとともに、適正な廃棄物処理に向けた取り組みを行う。	総務課	ごみの分別や減量化を呼び掛ける張り紙をキャンパス内に掲示し、学生・教職員へ周知徹底を図っている。また、学内でのランチ販売事業者に対しては、プラスチック製の容器包装の自主回収を依頼し、大学としてのごみの削減に努めている。リサイクルを推進するため、シュレッダー屑やウォーターサーバー用の紙コップを他と分けて回収している。 施設貸出時においては、利用者に対してごみの持ち帰りを依頼している。また、大学祭においては、実行委員会へ事前にごみの取扱い方法を指導し、分別回収、廃棄の際のリサイクルを学生自らが実施した。	3

Ⅷ　予算、収支計画及び資金計画

財務諸表及び決算報告書を参照

Ⅸ　短期借入金の限度額

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　短期借入金の限度額					
５億円	－	３億円	財務課	なし	―
2　想定される理由					
運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。	－	運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。	財務課	なし	―

Ⅹ　出資等に係る不要財産の処分に関する計画

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	－	なし	財務課	なし	―

ⅩⅠ　重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	－	なし	財務課	なし	―

ⅩⅡ　余剰金の使途

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	－	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	財務課	なし	―

ＸⅢ　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　施設及び設備に関する計画					
各事業年度の予算編成過程等において決定する。	－	計画に従い施設及び設備の整備改修等を行う。	財務課	キャンパス整備計画に基づき、粟津キャンパス及び末広キャンパスの整備を以下のとおり実施した。 ［施設整備］ ・粟津キャンパス 8- 9月　学生ホール改修工事 10- 3月　2期工事 研究室、実習室、トイレ改修 ＥＶ設置 3月　緑化フェンス設置工事 ・末広キャンパス 4- 9月　Ａ・Ｂ棟改修工事 Ｃ棟・渡り廊下増築工事 4-11月　外構・付帯工事	5
2　積立金の使途					
なし	－	なし	財務課	なし	—
3　その他法人の業務運営に関し必要な事項					
なし	－	なし	－	なし	—

(4) 指標単位評価

実績及び自己評価結果

【教育指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考	自己評価
1	志願倍率	志願者数／募集定員	最終年度	2倍以上	－	(7.2倍)	2019年 7.2(一般8.8、特別2.6) 2020年 5.5(一般6.5、特別2.6)	－
2	学生の満足度	5段階評価(平均値)	毎年度	3.3	3.3	**4.15**	前期 4.19 後期 4.11	a
3	外国語能力検定試験結果	国際文化交流学部TOEICスコア(4年生平均)	毎年度	600点	－	－		－
4	標準修業年限での卒業者の比率	4年間で卒業した人数／当該年度入学者数	毎年度(完成年度以降)	80%	－	－		－
5	就職希望者の就職率	就職者数／就職希望者数	毎年度(完成年度以降)	90%以上	－	－		－
6	国家試験合格率	看護師・保健師の合格率	毎年度(完成年度以降)	95%以上	－	－		－
		臨床工学技士の合格率	毎年度(完成年度以降)	95%以上	－	－		－
7	市民公開講座開講数	開講テーマ数／年	完成年度以降	10／年	－	(22)	市民大学　17 資格取得支援講座　3 その他授業　2	－
		教員参画数／年	完成年度以降	20人／年	－	(延べ33人)		－
8	市民による施設利用度	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	500人	**2,488人**		a
		自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	80人	**2,412人**	登録制から毎回の受付に変更	s
		大学施設利用件数／年	毎年度	25件	25件	**338件**	中央　50件 粟津 287件 末広　1件	s
9	インターンシップ参加者数	参加者数／年	毎年度(3年目以降)	200人	－	－		－

【研究指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考	自己評価
10	学会報告件数	報告件数／年	完成年度以降	100件	－	(144件)		－
11	論文・著書数	論文数／年	完成年度以降	70編	－	(99編)		－
		英語・その他の外国語論文数／年	完成年度以降	30編	－	(61編)		－
		著書発表数／年	完成年度以降	5編	－	(23編)		－
12	共同研究・受託研究数	実施件数／年	完成年度以降	10件	－	(7件)	共同研究　7件	－
13	科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	－	(28件)	新規　9件 継続　19件	－
		その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	－	(14件)		－

【国際交流指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考	自己評価
14	留学生受入・派遣数	受入人数／年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	－	(10人)	短期　5人 長期　5人	－
		派遣人数／年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	－	(36人)	短期　30人 長期　6人	－
15	海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	－	(13件)	大学間　8件 部局間　4件 その他　1件	－
16	国際シンポジウム・セミナー等発表・開催数	発表者数／年	完成年度以降	15人	－	(延べ29人)		－
		開催件数(累計)	最終年度	15件	－	(8件)		－

【地域貢献指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R1目標値	実績	備考	自己評価
17	市民公開講座開講数 （再掲）	開講テーマ数／年	完成年度以降	10／年	－	（22）	市民大学　17 資格取得支援講座　3 その他授業　2	－
		教員参画数／年	完成年度以降	20人／年	－	（延べ33人）		－
18	市民による施設利用度 （再掲）	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	500人	2,488人		a
		自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	80人	2,412人	登録制から毎回の受付に変更	s
		大学施設利用件数／年	毎年度	25件	25件	338件	中央　50件 粟津 287件 末広　1件	s
19	連携施設・店舗等の数	累計数	最終年度	50件	－	（336件）	協力企業等　319団体 ランチ助成券　17店舗 学食ネット　2店舗 （ランチ助成券との重複2店舗）	－
20	学生の地域行事等ボランティア件数・人数	件数／年	完成年度以降	20件	－	（15件）		－
		参加人数／年	完成年度以降	100人	－	（88人）		－

【業務運営の改善及び効率化】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考	自己評価
21	業務改善実施件数	件数(累計)	最終年度	40件	―	(25件)		―
22	FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数／年	毎年度	1件以上	1件以上	**4件**	第1回「学生の理解度を深める授業方法について」 第2回「科学研究費助成事業　研究計画調書の作成にあたって」 第3回「救命講習会」 第4回「学生の実践力アップを目指す3つの教育ストラテジー」	a

【財務内容の改善】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R1目標値	実績	備考	自己評価
23	自己収入額	自己収入額／年	毎年度(完成年度以降)	7億円以上	―	(5.0億円)		―
24	科学研究費補助金等獲得状況(再掲)	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	―	(28件)		―
		その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	―	(14件)		―

４　資料

資料１　［シラバス］キャリアデザイン・チーム論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
資料２　［シラバス］アカデミック・スキルズ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
資料３　［シラバス］テーマ別基礎ゼミ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97

中央キャンパス にて開講

キャリアデザイン・チーム論Ⅰ

共通教育科目
1 年生
1 単位　前期
水曜 1 限
木村　繁男

■到達目標

○「生産システム科学」とはどのような研究・教育分野であるか理解する。
○自己のキャリア形成について具体的イメージを持つことができる。

■授業の概要

「生産システム科学部」設立の理念、本学部で学ぶ意味、将来のキャリアーパスについて考える機会を与える。また、選挙権を有する社会人としての自覚を促し、その中で必要となる基礎的知識とスキル、自己管理力、他との協調性を身につけ、人間力養成を図ることが目標である。授業においては、「生産システム科学部」における教育研究を概観し、本学部で何を学び、何を研究すべきかについて議論する。南加賀の地において活躍する企業人を非常勤講師として迎え、現代社会を一個人として生きて行く上で必須となる健康論、環境論、人権論、地域概論、企業倫理、キャリア形成についても学ぶ。

■授業計画

1　大学・社会生活論（大学における学び方と生活の仕方）
　大学での学び方と生活上の注意
2　生産システム科学について（Ⅰ）
　工学の歴史と発展
3　生産システム科学について（Ⅱ）
　石川県におけるものづくり産業の発展
4　現代社会を生きる（Ⅰ）
　賢い消費者塾（石川県消費者センター担当弁護士を予定）
5　現代社会を生きる（Ⅱ）
　大人の交通マナー （JAF 広報担当者を予定）
6　キャリア形成の助けに（Ⅰ）
　（株）アイ・オー・データ会長を予定
7　キャリア形成の助けに（Ⅱ）
　（株）コマツ顧問黒本和憲氏を予定
8　キャリア形成の助けに（Ⅲ）
　会宝産業株式会社会長を予定

■テキスト・教材

適宜資料を配布

■参考書

三輪修三著「工学の歴史―機械工学を中心に」ちくま学芸文庫
中野明著「IT 全史」祥伝社

■評価方法

課題レポート（１００％）

中央キャンパス にて開講

キャリアデザイン・チーム論Ⅱ（看護）

共通教育科目
1 年生
1 単位　前期
水曜 2 限
担当複数

担当教員：山﨑　松美　清水　由加里　藤田　結香里

■到達目標

○大学での勉学と自分の将来とを結びつけ、学修意欲を高める。
○現時点でのキャリアデザインを描く。
○社会人力を向上させる。

■授業の概要

保健医療学部での勉学と卒業後の進路を結びつけながら考える授業とし、将来、人々の健康と福祉に貢献することの責任と誇りを自覚し、学修意欲と知的好奇心を喚起する。医療従事者としての広い視野を身につけるため、看護学科及び臨床工学科の教員が、それぞれ専門とする分野を授業のテーマとして、学部学科における教育内容を概観しながらキャリアデザインについて講義を行う。また、医療現場で求められる協調性や社会人として求められる自己管理力についても考える機会とする。

■授業計画

1　クラスアワー
　集う・語り合う・知り合う
2　●カリキュラムマップの紹介
　保健医療学部の教育を理解する
3　キャリアデザインを描く
　What are you going to be?
4　●小松大学の学生気質を創る
　一人が皆となる
5　●AED 講習
　人の命を救う・救われるために
6　看護の達人
　未来の貴方へ
7　●世界の達人
　未来の Glocal な人へ
8　クラスアワー
　集う・語り合う・支え合う

■テキスト・教材

必要な資料や教材等は毎回の講義において配布する（教科書の指定はない）

■参考書

授業中に随時紹介する。

■評価方法

授業参加度、グループワーク、プレゼンテーション、リポート、等を総合評価：100 点

キャリアデザイン・チーム論Ⅱ（臨床工学）

共通教育科目
1 年生
1 単位　前期
水曜 2 限
真田　茂　深澤　伸慈　坂元　英雄

■到達目標

〇大学での勉学と自分の将来とを結びつけ、学修意欲を高める。
〇現時点でのキャリアデザインを描く。
〇社会人力を向上させる。

■授業の概要

保健医療学部での勉学と卒業後の進路を結びつけながら考える授業とし、将来、人々の健康と福祉に貢献することの責任と誇りを自覚し、学修欲と知的好奇心を喚起する。医療従事者としての広い視野を身につけるため、看護学科及び臨床工学科の教員が、それぞれ専門とする分野を授業のテーマとして、学部学科における教育内容を概観しながらキャリアデザインについて講義を行う。また、医療現場で求められる協調性や社会人として求められる自己管理力についても考える機会とする。

■授業計画

1　クラスアワー：集う・語り合う・知り合う
2　●カリキュラムマップの紹介：保健医療学部の教育を理解する
　　●印は，看護学科と臨床工学科の合同授業
3　キャリアデザインを描く：あなたの未来は？医学・医療における臨床工学の役割
4　●小松大学の学生気質を創る：一人が皆となる
　　●印は，看護学科と臨床工学科の合同授業
5　●AED 講習：人の命を救う・救われるために
　　●印は，看護学科と臨床工学科の合同授業
6　臨床工学の達人１：医療の未来と医療機器のイノベーション
7　●世界の達人：未来の Glocal な人へ
　　●印は，看護学科と臨床工学科の合同授業
8　臨床工学の達人２：安全・安心の医療技術

■テキスト・教材

必要な資料や教材等は毎回の講義において配布する（教科書の指定はない）。

■参考書

真野俊樹（2017）「医療危機－高齢社会とイノベーション」（中公新書）
田中竜馬（2015）「集中治療 999 の謎」メディカルサイエンスインタナショナル
その他，授業中に随時紹介する

■評価方法

授業参加度、グループワーク、プリゼンテーション、リポート、等を総合評価：100 点

中央キャンパス にて開講

キャリアデザイン・チーム論Ⅲ

共通教育科目
1 年生
1 単位　前期
月曜 2 限
岩田　礼　盛田　清秀　酒井　亨

■到達目標

〇大学での勉学と自分の将来とを結びつけ、学習意欲を高める。
〇現時点でのキャリアデザインを描く。
〇社会人力とは何かを理解する。

■授業の概要

新入生が 4 年間の大学における勉学を卒業後の進路と結びつけながらデザインし、組織や社会集団の一員として自己 実現しながらそれらに貢献していくための知識とノウハウ を学ぶ。教員の一方的な話にならないよう、毎回、予習の必要な課題を与え、集団討議の時間を設ける。また、毎回 ミニッツペーパーを提出させる。外部講師による講義を組み入れながら各自のキャリアデザインを考えさせたり、事例を上げながらチームワークのあり方を考えさせたりする。

■授業計画

1　国際文化交流学部で学ぶ意義、チーム力とはなにか？（岩田）
2　自己認識と社会的役割・参加（盛田）
3　自分の性格傾向を知ろう（マイナビスタッフ＋岩田）
4　進路選択と科目選択の考え方（盛田）
5　教員自身の職業体験、社会人の基本動作　（酒井）
6　大学で学ぶ意義と自己責任意識（酒井）
7　いまの社会は学生に何を求めているか？（酒井）
8　チーム力（岩田）、試験

■テキスト・教材

大久保幸夫『キャリアデザイン入門[Ⅰ]基礎力編（第 2 版）（日本経済新聞出版社・日経文庫） その他随時プリントなどを配布

■参考書

・平井孝志ほか『ロジカル・シンキング』(日本経済新聞出版社・日経文庫ビジュアル)
・青井倫一ほか『クリティカルシンキング』（総合法令出版・通勤大学文庫）
・大久保幸夫『キャリアデザイン入門[Ⅱ]専門力編（第 2 版）（日本経済新聞出版社・日経文庫）
・堀公俊『ファシリテーション入門』（日本経済新聞出版社・日経文庫）
・前野隆司（編著）『システム×デザイン思考で世界を変える』（日経 BP 社）
・碇山洋『異彩を放つ石川の百年企業』（能登印刷出版部）
・ライターハウス『いしかわが世界に自慢したい企業・法人 15』（ダイヤモンド社）
その他随時紹介。

■評価方法

グループワーク、ディスカッション参加度 30%、ミニッツペーパー 20%、試験 50%

中央キャンパス にて開講

アカデミック・スキルズ（生産開講）

共通教育科目
1 年生
1 単位　前期
月曜 2 限 水曜 2 限

新田　雅道　岩田　佳雄　山田　良穂　安達　正明

■到達目標

〇理工系の文化に触れることにより「ものづくり」についての概要を理解できる。
〇調査研究を通して、理工系のテーマについての報告書作成と発表ができる。

■授業の概要

ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミックスキルズの養成を図る。全学 240 人が 12 クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。

■授業計画

1　モノづくりとは
　ものづくりとは何かについて担当教員の専門分野を通して理解を深める
2　理科系の作文技術
　テキストを参考にして理工系の報告書のまとめ方を学ぶ
3　調査研究テーマの決定
　１クラスを４～５人のグループに分け、各グループが実施する調査研究の大テー マと各人が担当するサブテーマを決める
4　調査研究テーマの実施（Ⅰ）
　進捗報告、調査研究、報告書執筆
5　調査研究テーマの実施（Ⅱ）
　進捗報告、調査研究、報告書執筆
6　調査研究テーマの実施（Ⅲ）
　進捗報告、調査研究、報告書執筆
7　発表資料の作成
　発表用 PPT 作成、最終報告書のまとめ
8　報告会
　報告会においてプレゼントとディスカッションを行う。
　報告書及び PPT 資料を提出する

■テキスト・教材

木下是雄（著）「理科系の作文技術」　中公新書
その他適宜資料を配布

■参考書

必要に応じて授業内で紹介する

■評価方法

調査報告書（５０％）発表（５０％）

中央キャンパス にて開講

アカデミック・スキルズ（看護開講）

共通教育科目
1 年生
1 単位　前期
月曜 2 限 火曜 4 限 水曜 1 限

北岡　和代　松井　優子　徳田　真由美　佐藤　大介

■到達目標

〇大学での学修の基礎となる集団討議・情報収集・整理・文章作成に関する多面的なアカデミックスキルを修得し、大学生活に活用できるようになる。

■授業の概要

「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学 240 人が 12 クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。

■授業計画

1　コミュニケーション技法：グループワークにおける技法と実践
　・技法についての講義、講義された技法を用いてグループワークを実践
2　情報収集・整理の技法：ノートの取り方、スケジュール管理
　・効果的なノートの取り方、スケジュール管理について学生間でグループ討議・発表
3　文章作成の技法（1）：リポートの書き方
　・リポート様式とルール、文献の引用、論理的な文章構成に関する講義
　・見本リポートを推敲（ペアワーク）
4　文章作成の技法（2）：リポートの書き方
　・推敲後の見本リポートを紹介、自分たちの推敲結果と比較、学びの共有
5　プレゼンテーションの技法（1）：魅力的なプレゼンテーションの条件
　プレゼンテーションの技法（1）：魅力的なプレゼンテーションの条件
6　プレゼンテーションの技法（2）：プレゼンテーション資料の作成
　・プレゼンテーション用ソフトウェアの操作方法、資料作成方法の講義と演習
7　プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション
　・グループ毎のプレゼンテーション、相互評価と改善点についての意見交換
8　教員と個人面接

■テキスト・教材

必要な資料や教材等は毎回の講義において配布する（教科書の指定はない）。

■参考書

授業中に随時紹介する。

■評価方法

授業参加度、グループワーク、リポート、プレゼンテーション、等を総合評価：80 点；個人面接：20 点

アカデミック・スキルズ（臨床工学開講）

共通教育科目
1 年生
1 単位　前期
火曜 4 限 水曜 2 限
中山　謙二　井関　尚一　八賀　正司

■到達目標

大学での学修を成功させるために，情報の収集と整理，課題の解決，批判的な思考，そしてコミュニケーションを効果的に行う能力を高める．

■授業の概要

「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き，ノートの取り方，資料収集法，資料整理法，レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る．全学 240 人が 12 クラスに分かれ，学生は所属学部以外の教員の授業を選択する．異分野の教員のスキルに触れることによって，新入生の視野を広げる狙いがある．教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ，講義，討議，文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する．

■授業計画

1　情報収集・整理の技法１
・さまざまな情報源から，効果的に必要な情報を得て整理することを理解する．
2　情報収集・整理の技法２
・情報へのアクセスと利用に関する倫理的な問題を認識する．
3　批判的思考の技法
・学問における批判的思考の重要性とエビデンスに基づく議論の展開を理解する．
4　課題解決の技法
・専門分野における課題の認識と，解決のための創造的思考と分析的思考を理解する．

5　コミュニケーション技法
文章やマルチメディアを使ったコミュニケーションの重要性を認識する．
6　文章作成の技法
・科学的思考と記述法を理解し，論理的な文章構成を理解する．
7　プレゼンテーションの技法１
・学術的アイデアを効果的に伝えるプレゼンテーションを理解する．

8　プレゼンテーションの技法２
・質疑応答の実際，的確な議論の進め方を演習する．

■テキスト・教材

テキスト
教材 教科書は特に指定しない。必要な資料,教材は毎回の講義にて配布する。

■参考書

授業中に随時紹介する。

■評価方法

プレゼンテーション・ディスカッション：50 点
レポートへの評価：50 点

中央キャンパス にて開講

アカデミック・スキルズ（国際開講）

共通教育科目
1 年生
1 単位　前期
火曜 4 限 水曜 1 限 水曜 2 限
岩田　礼　千葉　悠志　岡村　徹　中子　富貴子　木村　誠

■到達目標

〇大学での学修の基礎となる集団討議・情報収集・整理・文章作成に関する多面的なアカデミックスキルを修得し，大学生活に活用できるようになる。

■授業の概要

「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学 240 人が 12 クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。

■授業計画

1　コミュニケーション技法：集団討議の技法と実践
・アイスブレイク、ブレインストーミング、グループ技法についての講義
・代表的技法を用いたグループワーク
2　情報収集・整理の技法：ノートの取り方、スケジュール管理
・知識の構造、人間の記憶についての講義
・効果的なノートの整理方法、スケジュール管理方法の紹介

3　文章作成の技法（１）：レポートの書き方
・形式とルールに関する講義
・文献検索と文献の引用方法の練習（ペアワーク）
4　文章作成の技法（２）：レポートの書き方
・論理的な文章構成に関する講義
・論理的な文章の実例紹介
5　プレゼンテーションの技法（１）：魅力的なプレゼンテーションの条件
・聴き手を惹きつけるプレゼンテーション技法についての講義
・優良事例の紹介とグループワークでの意見交換
6　プレゼンテーションの技法（２）：プレゼンテーション資料の作成
・プレゼンテーション用ソフトウェアの操作方法、資料作成方法の講義
7　プレゼンテーションの技法（３）：プレゼンテーション発表
・グループ毎のプレゼンテーション発表と相互評価，改善点についての集団討議
8　まとめ
・まとめ、および総括

■テキスト・教材

教科書は特に指定しない。必要な資料,教材は毎回の講義にて配布する

■参考書

授業中に随時紹介する

■評価方法

プレゼンテーション・ディスカッション：50 点
レポートへの評価：50 点

中央キャンパス にて開講

テーマ別基礎ゼミ（生産）

共通教育科目
1 年生
2 単位　後期
月曜 2 限
担当複数

担当教員：木村 繁男 山田 外史 山田 良穂 安達 正明 木村 春彦 川端 信義 田村 博志 岩田 佳雄 新田 雅道 富澤 淳 酒井 忍 香川 博之 足津 正利 池田 慎治 梶原 祐輔 史 金星

■到達目標

○生産システム科学科の選択した特定研究分野の今日的課題を理解できる
○調査研究を通して、設定した課題についてプレゼンテーションとディベートができる

■授業の概要

「生産システム科学部」の各研究分野について具体的例を挙げながら詳細に紹介し、学生の将来のキャリアについて具体的イメージを形成する。それを受けて、学生はゼミ形式で担当教員と親しく交わり議論を戦わしながら、プレゼンテーションとディベートの訓練を積む。前半においては、各研究室の具体的研究テーマについて教員が紹介を行う。後半においては、学生は相談教員となっている教員と一緒に、学生が提案する個別のテーマについて調査研究を実施する。このゼミ形式の調査研究を通して、論理的考え方、プレゼンの方法、議論の仕方について経験を積む。

■授業計画

1　授業概要の説明。学科の研究テーマについて学ぶ（Ⅰ）
2　学科の研究テーマについて学ぶ（Ⅱ）
3　学科の研究テーマについて学ぶ（Ⅲ）
4　学科の研究テーマについて学ぶ（Ⅳ）
5　学科の研究テーマについて学ぶ（Ⅴ）
6　テキストを参考にして理工系の報告書のまとめ方を学ぶ（Ⅰ）
7　テキストを参考にして理工系の報告書のまとめ方を学ぶ（Ⅱ）
8　将来のキャリア形成について考える
9　４～５人からなる相談教員のグループに別れ、各グループが実施する調査研究の大テーマと各人が担当するサブテーマを決める
10　進捗報告、調査研究、報告書執筆（Ⅰ）
11　進捗報告、調査研究、報告書執筆（Ⅱ）
12　進捗報告、調査研究、報告書執筆（Ⅲ）
13　報告書のまとめと PPT 作成（Ⅰ）
14　報告書のまとめと PPT 作成（Ⅱ）
15　発表と報告書提出

■テキスト・教材

木下是雄（著）「理科系の作文技術」　中公新書（６２４）
その他適宜資料を配布

■参考書

特に指定しない。必要に応じて授業内で紹介する。

■評価方法

活動状況（２０％）報告書（４０％）発表（４０％）

中央キャンパス にて開講

テーマ別基礎ゼミ（看護）

共通教育科目
1 年生
2 単位　後期
火曜 1 限

森川　藤子　内田　美保　小泉　由美　日下　純子　松村　愛都

■到達目標

○看護学における導入的テーマに沿って、大学生としての知的生活を営む上で基本となる「読む・書く・プレゼン・ディベート」の能力を形成する
○「他者との協働的関係作り」に積極的に参加し、思考を深め創造する能力を形成する

■授業の概要

１年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を承け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。１クラスあたりの平均受講者数は 15 名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。

■授業計画

1　ガイダンス
情報検索・引用文献の書き方・リポートの形式と書き方・評価表の記入方法などについて理解する
2　導入的テーマの把握
当該テーマの背景や概略を理解する。
3　情報収集・整理 1
当該テーマの現状や問題点など、様々なツールを使って情報収集と整理を行う
4　情報収集・整理 2
当該テーマの現状や問題点など、様々なツールを使って情報収集と整理を行う
5　批判的思考の実践 1
批判的思考によって当該テーマの課題を明らかにする
6　批判的思考の実践 2
批判的思考によって当該テーマの課題を明らかにする
7　課題解決方法の検討 1
当該テーマの課題を解決するための方策を考察し、小括的な結論を導く
8　課題解決方法の検討 2
当該テーマの課題を解決するための方策を考察し、小括的な結論を導く
9　グループディスカッションにおける円滑なコミュニケーションの実践 1
配布資料やスライドを効果的に用いながら、自分の考えを的確に主張する
10　グループディスカッションにおける円滑なコミュニケーションの実践 2
配布資料やスライドを効果的に用いながら、自分の考えを的確に主張する
11　リポートの作成
自他の考えを客観的に分析し、科学的、論理的に当該テーマのリポートを纏める
12　プレゼンテーションの準備 1
思考経過と結論を効果的に伝えるプレゼンテーションの設計と準備を行う
13　プレゼンテーションの準備 2
思考経過と結論を効果的に伝えるプレゼンテーションの設計と準備を行う
14　プレゼンテーションの実際（前半グループ）
発表と質疑応答を経て、当該テーマに対する自分の思考や表現方法を総括する
15　プレゼンテーションの実際（後半グループ）
発表と質疑応答を経て、当該テーマに対する自分の思考や表現方法を総括する

■テキスト・教材

教科書は特に指定しない。必要な資料、教材は毎回の講義にて配布する。

■参考書

授業中に随時紹介する。

■評価方法

プレゼンテーション、ディスカッション、リポートなどを総合評価：100 点

テーマ別基礎ゼミ（臨床工学）

共通教育科目
1 年生
2 単位　後期
月曜 2 限
李　鍾昊　藤田　一寿　井澤　純子

■到達目標

〇自身の主張を聞き手に、明確にかつ理解し易く伝えるためのプレゼンテーション能力を取得している。
〇討論の際の質疑応答技術を習得している。

■授業の概要

1 年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を承け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。1 クラス当たりの平均受講者数は 15 名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。

■授業計画

1　基礎ゼミの概要と目的の説明
2　プレゼンテーションの基礎と重要性の理解
3　プレゼンテーション用スライド作成方法-1
4　プレゼンテーション用スライドの作成方法-2
5　グループ発表 I－1
6　グループ発表 I－1 に関する討論
7　グループ発表 I－2
8　グループ発表 I－2 に関する討論
9　グループ発表 I－3
10　グループ発表 I－3 に関する討論４
11　グループ発表 II－1
12　グループ発表 II－2
13　グループ発表 II－3
14　グループ討論
15　総括

■テキスト・教材

講義資料を配布する。

■参考書

研究発表のためのスライドデザイン　宮野公樹（講談社）

■評価方法

ゼミにおける発表および討論に基づいて成績を評価する。

テーマ別基礎ゼミ（国際）

共通教育科目
1 年生
2 単位　後期
火曜 4 限
塩谷　サルフィ　マクスーダ　一ノ瀬　忠之　木場　静穂　石谷　茂樹　宮崎　猛

■到達目標

国際観光・地域創生およびグローバルスタディーズの各専門分野の導入的なテーマに沿った講義・演習を通し、主体的な課題の設定、資料の収集・整理、議論の構築、発表を行えるようになる。

■授業の概要

１年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を承け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。発表準備の過程で、図書やインターネット・映像・フィールドワークを活用した資料収集と資料整理・分析の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。１クラスあたりの平均受講者数は 16 名前後となる。

【注意事項】この授業は国際文化交流学部で学ぶための基礎的な訓練を行なうことを目的とするが、共通科目であり、専門科目ではない。従って、上記のいずれの設定テーマに参加するかは、２年時以降のコース選択、専門分野選択とは一切関係しない。１クラスあたりの受講者数が平均 16 名前後となるよう教員が調整し、授業開始前に公示するので注意すること。

■授業計画

1　オリエンテーション
2　基礎的知識の習得１
3　基礎的知識の習得２
4　講義・演習・フィールドワーク１
5　講義・演習・フィールドワーク２
6　講義・演習・フィールドワーク３
7　講義・演習・フィールドワーク４
8　講義・演習・フィールドワーク５
9　資料収集
10　資料整理・まとめ
11　グループディスカッション１
12　グループディスカッション２
13　プレゼンテーションの準備
14　プレゼンテーションの実施
15　総括

■テキスト・教材

教科書は特に指定しない。必要な資料、教材は毎回の講義にて配布する。

■参考書

授業中に随時紹介する。

■評価方法

レポート（50%）、発言などに表れた授業への参加度・プレゼンテーション（50%）

５　用語解説

【アクティブラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、 教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査 学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブラーニングの方法である。

【アドミッション・ポリシー、ＡＰ】

入学者受入れの方針。各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の３要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。

※（１）知識・技能　（２）思考力・判断力・表現力等の能力　（３）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

【カリキュラム・ポリシー、ＣＰ】

教育課程編成・実施の方針。ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

【シラバス】

学生が授業科目の履修を決める際の参考資料や準備学習を進めるために用いられる各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業科目、担当教員名、講義目的、毎回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習のための具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件などが記載されている。また、教員相互の授業内容の調整や、学生による授業評価などにも使われる。

【ディプロマ・ポリシー、ＤＰ】

卒業認定・学位授与の方針。各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。